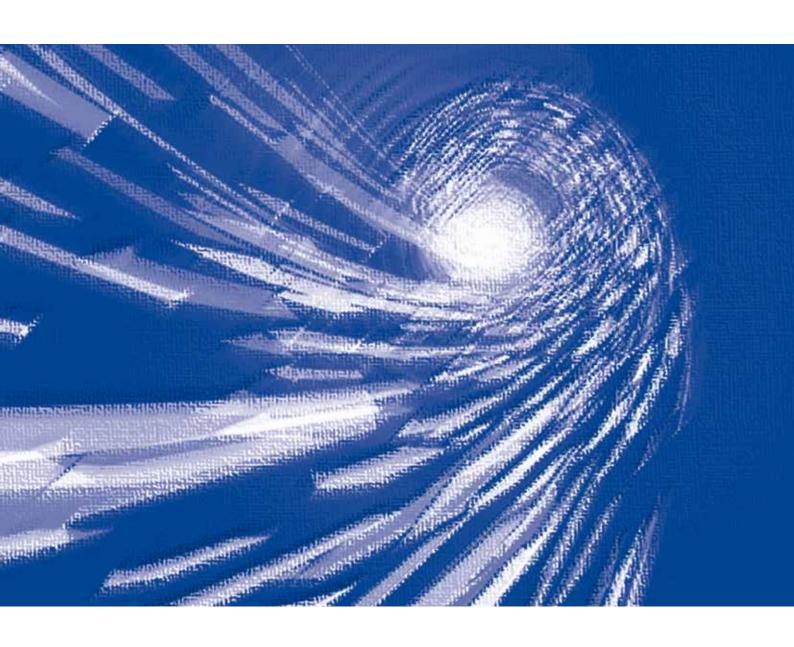
# これからの時代に求められる 資質・能力の育成

**――** カリキュラム·マネジメントを通して――



平成29年2月 東京都多摩教育事務所

#### 平成27年度の研究

### これからの時代に求められる資質・能力の育成

#### 一学びの質や深まりを重視したPDCAサイクルを通して一

東京都多摩地区教育推進委員会では、次期学習指導要領に向けた改訂の方向性を踏まえて、これからの時代に求められる資質・能力の育成をテーマに研究に取り組んできた。

平成27年度は、改訂の方向性の柱の一つである、**主体的・対話的で深い学びの実現**の視点から、子供が「どのような資質・能力を身に付けるか」を明確にしたPDCAサイクルの推進と、学びの質や深まりを促すための活動の工夫について、事例の開発を通して検証を行った。

本研究を通して、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善と深く関連する、次の四つの効果的な指導の工夫が明らかになった。

#### 単元(題材)全体を通した資質・能力の育成

資質・能力といった大きな力は、単元(題材)全体を通してこそ育成が図られる。単元(題材)を通して、子供が「どのような資質・能力を身に付けるか」を明確にしたPDCAサイクルを推進することが大切である。

#### 子供が活動する時間の確保

資質・能力の育成を図るためには、子供が「どのように学ぶか」を重視し、教師の教授する内容や支援を精選したり、活動の場を工夫したりするなど、子供が活動する時間を十分に確保することが効果的である。

#### 学びの質や深まりを促すための活動の工夫

子供が主体的に学習に取り組み「学びの質」を高めるためには、単に活動を設定するだけではなく、活動の目的を明確にする工夫が効果的である。

また、子供が身に付けた資質・能力を活用したり、新たな課題を見いだしたりする「学びの深まり」を促すためには、「体験活動」や「協働的な活動」の前後に「言語活動」を取り入れることが有効である。このことにより、学習の理解を確かにしたり、自分の考えを広げ深めたりすることができる。

#### 「個」→「集団」→「個」の学習過程の設定

学習過程に学び合いを取り入れる場合は、学び合いの後で、子供が再び自分の考えをまとめたり学んだことを振り返ったりすることにより、学習内容の理解を深めたり次の学びにつなげたりすることができる。このことから、資質・能力の育成を図るためには、「個」→「集団」→「個」という学習過程を設定することが効果的である。

平成28年度は、もう一つの柱である**カリキュラム・マネジメントの実現**の視点から、学校が重点的に育みたい資質・能力を子供一人一人に育成するために、教員一人一人が、何にどのように取り組めばよいかを、事例の開発を通して明らかにする。

今年度の研究と平成27年度の研究は、二つで一つの研究である。2年間にわたる研究の成果が、 次期学習指導要領の実施に伴う各学校の取組において活用されることを願っている。

# 目 次

基本的な考え方	
 I 研究の背景 ······	1
Ⅱ 研究主題	1
Ⅲ 研究の概要	2
研究の内容	
I 子供一人一人に重点的に育みたい資質・能力の明確化	3
Ⅱ 子供一人一人に資質・能力を育成するための二つの視点	3
Ⅲ 子供一人一人に資質・能力が育成されたかについての評価	4
◆ 研究概要図	5
カリキュラム編成部会	
【視点1】教科等横断的な視点からの教育活動の改善 ····································	7
<ul><li>◇ 天成争判 ◇</li><li>小学校 第3学年 図画工作、社会、理科の内容を関連させた配列 ···········</li></ul>	9
小学校 第4学年 国語、社会、算数の内容を関連させた配列	11
中学校 第2学年 道徳、総合的な学習の時間、技術・家庭(家庭分野)の	11
内容を関連させた配列 ····································	13
中学校 第3学年 国語、社会、音楽の内容を関連させた配列	15
小学校 第6学年 国語、社会、総合的な学習の時間の内容を関連させた配列 …	17
中学校 第1学年 理科、数学、総合的な学習の時間の内容を関連させた配列 …	19
マネジメント推進部会	
【視点2】教育内容の質の向上に向けた教育活動のPDCAサイクルの推進	21
中学校 学校行事に係る各教科等の教育活動の改善	23
小学校 校内研究の推進	25
小·中学校 小・中学校合同の「学園研究」の推進	27
小学校 総合的な学習の時間に係る指導計画の見直し	29
中学校 オリンピック・パラリンピック教育に係る各教科等の指導計画の見直し …	31
小学校 学校評価の見直し	33
研究のまとめ	
I カリキュラム・マネジメントの実施上のポイント	35
Ⅱ カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニングの一体的な推進 …	37
	20
【演習シート】子供一人一人に重点的に育みたい資質・能力の明確化 東京都多摩教育事務所の刊行物	38
米水即多序教月事物がUTI111/1/1	39

# 基本的な考え方

# I 研究の背景

#### 1 子供たちを取り巻く状況

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な時代となってきている。このような時代を子供たちがたくましく生きていくためには、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な資質・能力を育成していくことが求められる。

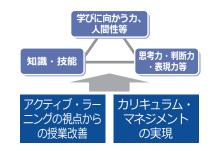
#### 2 国の動向と次期学習指導要領等の方向性

平成28年12月に、中央教育審議会は、次期学習指導要領等に向けた改善及び必要な方策等について 答申をまとめた。本答申では、これからの時代に求められる資質・能力を子供たちに育成するために、「各教科等において育む資質・能力」「教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力」「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」などの全ての資質・能力に共通する要素について、資質・能力の三つの柱<sup>※1</sup>(以下、「三つの柱」という。)として整理した。

#### ※1 資質・能力の三つの柱

- ◆ 何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)
- ◆ 理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)
- ◆ どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や 社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」中央教育審議会(平成28年12月)による



これからの時代に求められる資質・能力を子供たちに育成するために、各学校においては、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善とともに、教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すカリキュラム・マネジメントの実現を図ることが期待される。

#### Ⅱ 研究主題

### これからの時代に求められる資質・能力の育成

一カリキュラム・マネジメントを诵して一

#### 1 多摩地区の学校における現状と目指す方向性

多摩地区の公立小・中学校におけるカリキュラム・マネジメントの現状については、今年度、東京都 多摩教育事務所が訪問した各学校の実践から、その一端を捉えることができる。

各学校におけるカリキュラム・マネジメントは、例えば「教育課程の編成・実施・評価・改善」「学校評価」「各教科等の年間指導計画の立案」「週ごとの指導計画の立案及び授業の実施」等を中心に実践されてはいるものの、それぞれの取組を個々の教員のものから学校全体の取組にしていくことに課題があると考える。

しかし今後、これからの時代に求められる資質・能力を、子供一人一人に着実に育成するためには、 各学校において、これまでの取組を生かしつつ、学校教育目標の実現というカリキュラム・マネジメントの目的を明確にもち、全ての教員が教育課程全体を見渡しながら推進することが求められる。

具体的には、各学校が子供一人一人に重点的に育みたい資質・能力を明確にし、その育成のために教科等横断的な視点で必要な教育の内容を組織的に配列して、人的・物的資源等を効果的に組み合わせながら教育活動を展開するとともに、重点的に育みたい資質・能力を育成する観点から、その成果や課題を検証して改善を図ることである<sup>※2</sup>。

#### ※2 カリキュラム・マネジメントの三つの側面

- ・ 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校教育目標を踏まえた教科等横断的な視点で、その目標の達成 に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ・ 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立すること。
- ・ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせること。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」中 央教育審議会(平成28年12月)による

#### 2 研究のねらい

本研究では、これからの時代に求められる資質・能力を子供たちに育成するためには、学校教育目標の実現を目指して、教育課程全体を通して重点的に育みたい資質・能力を明確にした上で、①教科等横断的な視点から教育活動の改善を図ること、②教育内容の質の向上に向けて教育活動のPDCAサイクルの推進を図ること、の2点が重要であると考え、本研究主題を設定して事例の開発を行うこととした。

#### Ⅲ 研究の概要

#### 1 研究の視点

本研究では、主に、次の二つの視点で研究に取り組むこととした。

#### 視点1 教科等横断的な視点からの教育活動の改善

教育課程全体を通して重点的に育みたい資質・能力を着実に育成するためには、単独の教科等にとどまらず、各教科等の枠を越えて内容を捉えていくことが重要となる。

そこで本研究では、各学校において重点的に育みたい資質・能力を育成するために、全ての教科等を 見渡して資質・能力に関連のある内容を洗い出し、それらを教科等横断的な視点で組織的に配列し、教 育活動の改善を図ることについて事例を開発して検証することとした。

#### 視点2 教育内容の質の向上に向けた教育活動のPDCAサイクルの推進

教育課程全体を通して重点的に育みたい資質・能力を着実に育成するためには、「子供一人一人に資質・能力を育成することができたか」という観点から、日々の教育活動のPDCAサイクルを推進していくことが重要となる。

そこで本研究では、教育内容の質の向上に向けて、重点的に育みたい資質・能力を育成する観点から 教育活動のPDCAサイクルを推進し、教育内容に焦点を当てて指導計画や学習活動などの計画・実施・ 評価・改善を図ることについて事例を開発して検証することとした。

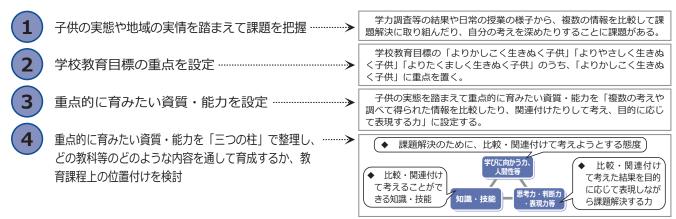
#### 2 研究体制

研究の視点を踏まえて、「カリキュラム編成部会」「マネジメント推進部会」を設定し、部会ごとに事例を開発して検証することとした。

# 研究の内容

#### I 子供一人一人に重点的に育みたい資質・能力の明確化

学校教育目標の実現を目指して、教育課程全体を通して「何ができるようになるか」という観点から、次のような手順で学校として重点的に育みたい資質・能力を設定し、「三つの柱」で整理して明確にする。「三つの柱」で整理した具体的な資質・能力を、子供の実態や発達段階に応じてバランスよく育成するためには、教育課程全体を見渡して、どの教科等のどのような内容を通して育成するかを明確にし、各教科等の枠を越えて教育課程上の位置付けを意識しながら、個々の教育活動の改善を図ることが重要である。



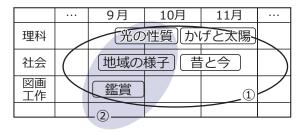
### Ⅱ 子供一人一人に資質・能力を育成するための二つの視点

各学校において重点的に育みたい資質・能力は、教育課程全体を通して育成される。この前提の下、本研究では、①重点的に育みたい資質・能力に関連のある各教科等の内容を、各教科等の枠を越えて相互の関係で捉え直し、教育活動の改善を図ること、②教育内容の質の向上のために、教育活動のPDCAサイクルの推進を図ること、の二つの視点が重要であると考え、事例を開発して検証を行った。

#### 視点1 教科等横断的な視点からの教育活動の改善

重点的に育みたい資質・能力を育成するために、次の手順で教育活動の改善を図っていく。

- (1) 資質・能力に関連のある各教科等の内容を整理する 「三つの柱」で整理した資質・能力に関連のある各 教科等の内容を全て洗い出し、特に重点を置く各教科 等の内容を明確にする。
- ① 重点的に育みたい資質・能力に関連のある各教科 等の内容を洗い出す。
- ② 「三つの柱」で整理された資質・能力を効果的に 育成するために必要な各教科等の内容を明確にする。
- 例) 重点的に育みたい資質・能力を「複数の考えや調べて得られた情報を比較したり、関連付けたりして考え、目的に応じて表現する力」とした場合



(2) 整理した内容を組織的に配列する

整理した内容を、子供の実態を踏まえて配列する。本研究では、資質・能力を育成する観点から子供の実態を踏まえて、次の三つの組織的な配列の仕方を開発した。

ア 「三つの柱」で整理された資質・能力が、バランスよく身に付いていない場合

#### 配列1 複数の教科等の内容を段階的に配列する

十分に育成されていない資質・能力を複数の教科等の内容を通して身に付けた後、それを他教科 等の内容において活用・発揮しながら育成できるように配列する。

イ 特定の教科等では、「三つの柱」の資質・能力が一定程度バランスよく身に付いているが、他教 科等では十分に育成されていない場合

#### 配列2 一つの教科等の内容を軸に、他教科等の内容を関連させながら配列する

特定の教科等の内容を通して身に付いている資質・能力を基点に、それを他教科等の内容で活用・発揮しながら育成できるように配列する。

ウ 身に付いている資質・能力を更に高めたい場合

#### 配列3 複数の教科等の内容を統合するように配列する

各教科等の内容を通して身に付けた資質・能力を、総合的な学習の時間や特別活動、他教科等の 内容で活用・発揮し、更に高めていくことができるように配列する。

#### 視点2 教育内容の質の向上に向けた教育活動のPDCAサイクルの推進

教育活動のPDCAサイクルを推進し、教育課程全体を通して育みたい資質・能力を着実に育成するために、次のことに重点に置く。

- (1) 重点的に育みたい資質・能力を育成する観点から教育活動の PDCAサイクルを推進する。(右図)
  - ➣ 「三つの柱」ごとの具体的な資質・能力を、どの教科等の どのような内容を通して育成するかを明確にする。
- (2)教育内容に焦点を当てて指導計画や学習活動などを計画・実施・評価・改善する。
  - ▶ 各教科等の評価規準に照らして資質・能力が育成されたか を評価し、教育内容に焦点を当てて指導計画や学習活動など を修正・改善する。

〔図〕重点的に育みたい資質・能力を育成する ための教育活動のPDCAサイクル



### **Ⅲ 子供一人一人に資質・能力が育成されたかについての評価**

重点的に育みたい資質・能力を「三つの柱」で整理することにより、どの教科等のどのような内容を通して育成するかということが明確になるため、各教科等の内容についての学習状況を通して、子供に資質・能力が育成されたかどうかを評価することが可能になる。

具体的には、「三つの柱」ごとに明確にした各教科等の内容に係る単元(題材)の指導計画に示した、 「三つの柱」と一致する各観点の評価場面で、資質・能力の評価も併せて行うことができる。

例)重点的に育みたい資質・能力を「複数の考えや調べて得られた情報を比較したり、関連付けたりして考え、目的に応じて表現する力」とした場合(小学校の例)



重点的に育みたい資質・能力を「三つの柱」で整理し、「知識・技能」は主に図画工作や社会の内容を通して、「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」は主に理科の内容を通して育成を図ることとした。



比較したり、関連付けたりして考えることに課題があり、特に知識・技能を育成することを重視する必要があるという子供の実態から、図画工作で知識・技能の「比較すること」、社会で知識・技能の「比較して、関連付けること」を指導した後、理科でそれらを活用・発揮させながら、思考力・判断力・表現力等の「比較・関連付けることを活用して、課題解決する力」の育成を図る。

小学校第3学年 理科 単元名「光の性質」

〈単元の目標〉 光の進み方や物に光が当たったときの明るさや暖かさを調べ、光の性質について考えることができる。

時	学習内容	評価規準
h4	于白的台	計1曲/允平
1~2	日光を鏡に反射させて遊ぶことを通して、問題作りをする。	【学・人】平面鏡に日光を当てたときの現象に興味・ 関心をもち、進んで光の性質を調べようとしている。
3~5	鏡ではね返した光の進み方を 調べる。	【思・判・表】様々な方法で調べ、結果を比較 することで、光は直進することに気付いている。
6~8	光を重ねたときと重ねないと きの明るさや暖かさの違いを調 べる。	【思・判・表】鏡の枚数を変えたときの明るさと 暖かさの違いを比較し、その結果を鏡の枚数と関連付けて考えている。
9	虫眼鏡で日光を集めて、光 を当てたときの様子を調べる。	【学・人】虫眼鏡に日光を当てたときの現象に興味・ 関心をもち、進んで光の性質を調べようとしている。

例えば、「思考力・判断力・表現力等」であれば、理 科の単元の指導計画に示した評価規準に照らして資質・ 能力を評価する。

「思考力・判断力・表現力等」の評価場面で、 資質・能力が育成されたかを併せて評価する。

# これからの時代に求められる資質・能力の

#### これからの時代に求められる 資質・能力の具体例

- ◆ 各教科等において育む資質・
- ◆ 教科等を越えて、全ての学 習の基盤として育まれ、活用 される資質・能力
- ◆ 現代的な諸課題に対応して 求められる資質・能力

# 学校教育目標の重点の設定

# 子供一人一人に重点的に

資質・能力の三つの柱で整理し、どの教科等の

課題解決のために、比較・関連付けて考えようとす

学びに向か 人間性

比較・関連付けて考える ことができる知識・技能

知識・技能

# 子供一人一人に資質

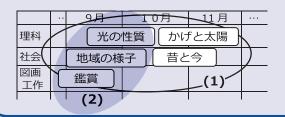
視点1

# 教科等横断的な視点からの教育活動の改善

その

### 1 資質・能力に関連のある各教科等の内容の整理

- (1) 重点的に育みたい資質・能力に関連 のある各教科等の内容を洗い出す。
- (2) 「三つの柱」で整理された資質・能 力を効果的に育成するために必要な 各教科等の内容を明確にする。



### 2 整理した内容の組織的な配列

配列1 複数の教科等の内容を段階的に配列する

一つの教科等の内容を軸に、他教科等の 配列 2 内容を関連させながら配列する

複数の教科等の内容を統合するように 配列 3 配列する

<子供の実態> のうち「知識・技能」が十 分に身に付いていない。

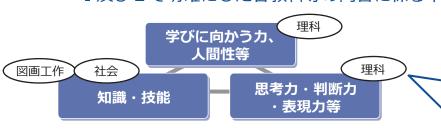
配列1 資質・能力を複数の教科等の 資質・能力の「三つの柱」 内容を通して身に付けた後、それを他教 □ 科等の内容において活用・発揮しながら 育成できるように配列

図画工作 比較する内容 社会 比較して、 関連付ける内容

理科 活用して、 課題解決する内容

#### 子供一人一人に資質・能力 Ш

I 及びⅡで明確にした各教科等の内容に係る単元(題材)の指導計画に示した



小学校第3学年 理科「光の性質」

◇ 単元の目標 光の進み方や物に光が当たったときの 明るさや暖かさを調べ、光の性質につい て考える。

# 育成 一カリキュラム・マネジメントを通して一

例)「よりかしこく生きぬく子供」

# 育みたい資質・能力の明確化

どのような内容を通して育成するかを検討する。

る態度

うカ、

◇ 重点的に育みたい資質・能力(例) 複数の考えや調べて得られた情報を、比較したり 関連付けたりして考え、目的に応じて表現する力

思考力・判断力 ・表現力等 ◆ 比較・関連付けて考えた結果を目的 に応じて表現しながら課題解決する力

#### 子供の実態 (例)

- ・ 判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、 実験結果を分析して解釈・考察し、説明したりする力が十分ではない。
- ・ 自己肯定感や主体的に学習 に取り組む態度、社会参画の 意識等が十分ではない。

# 力を育成するための二つの視点

ために

# 視点 2

# 教育内容の質の向上に向けた 教育活動のPDCAサイクルの推進

#### ポイント1

重点的に育みたい資質・能力 を育成する観点から教育活動の PDCAサイクルを推進する。

#### Plan

資質・能力を育成する 内容を明確にする

#### ポイント2

教育内容に焦点を当てて 指導計画や学習活動などを 計画・実施・評価・改善する。

### Action

資質・能力を更に育成する ために内容を改善する

#### Do

資質・能力を育成することを 意識して指導を実施する

#### 例)年間指導計画の修正では…

単元の配列とともに、学習活動の工夫 や人的・物的資源の活用、関連する学年 の教科等の内容との関連などの視点から 修正

#### Check

資質・能力を育成する内容 であったかを評価する

#### 例)校内の研究授業では…

発問や板書の仕方などの「指導の工夫」ではなく、「資質・能力を育成するための学習活動であったか」「各学年の単元の指導計画、年間指導計画の内容は適切か」などを検討

# が育成されたかについての評価

「三つの柱」と一致する各観点の評価場面で、資質・能力の評価も併せて行う。

$\Diamond$	単元の指導計画	
時	学習内容	評価規準
1~	2 日光を鏡に反射させて遊ぶことを通して、 問題作りをする。	【学・人】平面鏡に日光を当てたときの現象に興味・関心をもち、 進んで光の性質を調べようとしている。
3~	5 鏡ではね返した光の進み方を調べる。	【思・判・表】様々な方法で調べ、結果を比較することで、光は 直進することに気付いている。
6~	8 光を重ねたときと重ねないときの明るさや 暖かさの違いを調べる。	【思・判・表】鏡の枚数を変えたときの明るさと暖かさの違いを、 比較し、その結果を鏡の枚数と関連付けて考えている。
9	虫眼鏡で日光を集めて、光を当てたときの 様子を調べる。	【学・人】虫眼鏡に日光を当てたときの現象に興味・関心をもち、 進んで光の性質を調べようとしている。

「思考力・判断力・表現力等」の 評価場面で、資質・能力が育成され たかを併せて評価する。

#### カリキュラム 編成部会 【視点1】教科等横断的な視点からの教育活動の改善

#### 1 資質・能力に関連のある各教科等の内容の整理と組織的な配列

#### (1) 資質・能力に関連のある各教科等の内容の整理

重点的に育みたい資質・能力を「三つの柱」で整理する。「三つの柱」で整理した資質・能力に関連のある各教科等の内容を全て洗い出し、特に重点に置く各教科等の内容を明確にする。

- ① 重点的に育みたい資質・能力に関連のある各 教科等の内容を洗い出す。
  - 例)「比較」「関連」に関連のある内容を洗い出す。
- ② 「三つの柱」で整理された資質・能力を効果 的に育成するために必要な各教科等の内容を明 確にする。
  - 例) 明確にした内容の中から、資質・能力を重 点的に育成するために必要な内容はどれか、 指導する時期も含めて検討する。

#### (2)整理した内容の組織的な配列

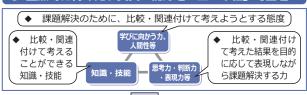
整理した内容を、子供の実態を踏まえて配列する。

本研究では、資質・能力を育成する観点から子供の実態を踏まえて、次の三つの組織的な配列を開発した。

#### <例)小学校第3学年 図画工作、社会、理科の内容を関連させた配列>

<重点的に育みたい資質・能力> 「複数の考えや調べて得られた情報を比較したり、関連付けたりして考え、目的に応じて表現する力」の場合

#### ○ 重点的に育みたい資質・能力を「三つの柱」で整理



#### (1) 資質・能力に関連のある各教科等の内容を整理



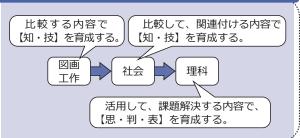
#### 配列1 複数の教科等の内容を段階的に配列する

#### 子供の実態

「三つの柱」で整理された資質・能力が、バランスよく身に付いていない場合

十分に育成されていない 資質・能力を複数の教科 等の内容を通して身に付け た後、それを他教科等の内 容において活用・発揮しな がら育成するように配列

#### (2)子供の実態を踏まえて組織的に配列



# 配列 2 一つの教科等の内容を軸に、

### 他教科等の内容を関連させながら配列する

#### 子供の実態

特定の教科等では、「三つの柱」の資質・能力が一定程度バランスよく身に付いているが、他教科等では十分に育成されていない場合

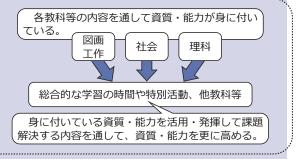
軸となる教科等で身に 付いている資質・能力を を基点に、他教科等の内容 で活用・発揮しながら育 成できるように配列

#### 

#### 配列3 複数の教科等の内容を統合するように配列する

#### 子供の実態

身に付いている資質・ 能力を更に高めたい場合 総合的な学習の時間や 特別活動、他教科等の内 >容で活用・発揮し、更に 資質・能力を高めていく ことができるように配列



# 2 子供の学びの自覚と、資質・能力の活用・発揮を促す「学びの履歴」

本研究では、子供に重点的に育みたい資質・能力を育成するためには、各教科等の学習で身に付いた資質・能力を自覚させることや他教科等の学習で活用・発揮させることが大切であると考え、それらを資質・能力に関連のある教科等の学習の後に、子供が記録していく「学びの履歴」を開発した。

学て	がの履り	焚	(	) 年 ( ) 組 ( )
No.	日付	教科等	めあて	学習で学んだこと
書き方	/		学習のめあてを 書こう。	<ul><li>・根拠をもって考えることのよさは?</li><li>・次の学習や他教科等でも使えそうなことは?</li><li>・うまくいったことは?</li><li>・うまくいかなかったことは?</li></ul>
1	/	社会		
2	/	理科	_	<b>資質・能力に関連のあ</b>
			る教	教科等で記入する。

#### 子供の活用

- 資質・能力に関連のある教科等の学習の後 に、記入する。
  - ・ 学習を振り返り、身に付いた資質・能力を自 覚する。
  - ・ 他教科等の学習や身近な生活場面で活用できるか意識する。
  - ・ 他教科等の学習で、資質・能力を活用・発揮できるように「学びの履歴」を見直す。

#### 教師の活用

- 教育課程全体を通して、資質・能力に関連 のある教科等の内容を意識して指導する。
  - ・ 子供の「学びの履歴」から授業を振り返り、 次の学習の指導に生かす。
  - ・ 資質・能力に関連のある教科等の学習で、子 供が自主的に「学びの履歴」を記入できるよう 継続して指導する。
  - ・ 資質・能力に関連のない教科等の学習においても資質・能力を活用して考えた場合は、「学びの履歴」を記入できるようにする。

# 実践事例一覧

事例名	重点的に育みたい資質・能力	事例の概要	ページ
小学校第3学年 図画工作、社会、理科 の内容を関連させた配列	複数の考えや調べて得られた情報を比較したり、関連付けたりして考え、目的に応じて表現する力	配列1 複数の教科等の内容を段階的に配列する 比較したり、関連付けたりして考えることができる知識・技能を育成し、光の性質を導くという課題 解決の内容において、それらを活用・発揮できるように配列する。	9 · 10
小学校第4学年 国語、社会、算数の内 容を関連させた配列	様々な情報を整理して根拠を明確にし、自分の考えを表現する力	配列1 複数の教科等の内容を段階的に配列する 叙述や体験したこと、調べたことなどを根拠として考えることができる知識・技能を育成し、根拠を基に表現する 内容において、それらを活用・発揮できるように配列する。	11 • 12
中学校第2学年 道徳、総合的な学習の 時間、技術・家庭(家庭 分野)の内容を関連させ た配列	自分の役割や責任を果たしながら、他者や社会との関わりの中で、 よい点はさらに伸ばしたり、課題を 明らかにして解決したりしようとす る自分らしい生き方を実現する力	配列2 一つの教科等の内容を軸に、 他教科等の内容を関連させながら配列する 道徳の内容と関連のある、他者や社会との関わり について学ぶ総合的な学習の時間や技術・家庭(家 庭分野)の内容とつなげて配列する。	13 • 14
中学校第3学年 国語、社会、音楽の内 容を関連させた配列	自分の意見や主張を根拠や理由 を基に表現したり、互いの意見や 主張を生かし合って合意形成した りしながら、課題解決する力	配列2 一つの教科等の内容を軸に、 他教科等の内容を関連させながら配列する 国語の内容と関連のある、根拠を必要とすること を学ぶ社会の内容や、互いの意見を生かし合いなが ら取り組むことを学ぶ音楽の内容とつなげて配列する。	15 • 16
小学校第6学年 国語、社会、総合的な 学習の時間の内容を関連 させた配列	自ら課題を設定し、課題解決に 向けて他者と協働し、新たな考え を創造しようとする力	配列3 複数の教科等の内容を統合するように配列する 国語や社会の内容で身に付いている資質・能力を、 総合的な学習の時間における、市の課題を把握して 「市の未来づくりプラン」を作成し、保護者や地域の 人に提案する内容で活用・発揮できるように配列する。	17 • 18
中学校第1学年 理科、数学、総合的な 学習の時間の内容を関連 させた配列	複数の考えや情報を比較したり、 関連付けたりすることで、課題解 決を図ろうとする力	配列3 複数の教科等の内容を統合するように配列する 理科や数学の内容で身に付いている資質・能力を、 総合的な学習の時間における、私たちが住むまちの活 性化に向けて、まちの弱みを強みに変えるためのプラ ンを考える内容で活用・発揮できるように配列する。	19 • 20

#### 図画工作、社会、理科の内容を関連させた配列 小学校第3学年

学校教育目標(重点目標)

◆ 重点的に育みたい資質・能力

「よりかしこく生きぬく子供」

複数の考えや調べて得られた情報を 比較したり、関連付けたりして考え、 目的に応じて表現する力

#### 資質・能力に関連のある教科等の内容の整理 1

「比較 | 「関連 | に関連のある内容の整理

	 … 9月 10月		11月	
理科	日なたと日かげ	3 光の性質	かげと太陽	
社 会	2 市の株	養子 昔と今の道	具	
図画工作	1 鑑賞			
:				

#### 整理した内容の組織的な配列

子供の実態 比較したり、関連付けたりして考 えることが十分に身に付いていないため、特 に重視して知識・技能を育成する必要がある。

#### 配列1

複数の教科等の内容を段階的に配列する



- ◇ 単元の内容 身近にある作品などを鑑賞して、 いろいろな表し方や材料による感じ の違いについて話し合う。
- ◆ 資質・能力に係る評価規準 【知・技】視点をもって作品を 比較し、違いを見いだすことが できている。

#### 資質・能力の育成を 図るためのポイント

複数の作品を比べて鑑賞し、 表し方や材料によって感じの違 いを話し合うことを通して、視 点をもって比較し、違いを見い だすことができる知識・技能を 育成する。



◇ 単元の内容

自分たちの住んでいる身近な地 域や市について、地域ごとの様子 を比較し、場所によって違いがあ ることについて考える。

資質・能力に係る評価規準 【知・技】二つの場所を比較して 分かった共通点や相違点の理由を 考えることができている。

#### 資質・能力の育成を 図るためのポイント

自分の住んでいる地域や市の 様子について場所による共通点 や相違点を明らかにした上で、 その理由を考えることを通して、 つの事象を関連付けて考える ことができる知識・技能を育成 する。



◇ 単元の内容

鏡を使って、光の進み方や物が 光に当たったときの明るさや暖か さを調べ、光の性質について考え

◆ 資質・能力に係る評価規準 **【思・判・表**】鏡の枚数によっ て明るさや暖かさの違いがある ことの理由を考察している。

#### 資質・能力の育成を 図るためのポイント

①図画工作、2社会で身に付 けた比較・関連付けて考える力 を活用・発揮して、光の重なり と明るさや暖かさとを関連付け て、光の性質を導くという課題 解決を通して、重点的に育みた い資質・能力を育成する。

#### 理科

課題解決のために、比較・関連付けて考えようとする態度

理科

図画工作)

社会

比較・関連付けて 考えることができる 知識・技能

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

比較・関連付けて 考えた結果を目的に 応じて表現しながら 課題解決する力

### 子供の学びの在り方の変容

比較して考えることができる。



形や色の違いに着目し て作品を比較し、気付い たことや感じたことを話 し合っている場面

形や色の視点をもっ て作品を比較すること で、いろいろな表し方 や感じの違いを見付け ることができた。

また、話し合うこと で他者の感じ方を認め 合うことができた。

るさや暖かさの関係につ いて、鏡の枚数を増やし て比較しようと数種類の 実験方法を考え、その結 果を関連付けて課題解決 することができた。

比較したことを関連付けて 考えることができる。



比較して分かった共通 点や相違点の理由を「な ぜ」という視点から関連 付けている場面

市の様子について、 大通りと一本奥に入っ た通りとを比べて、 人の数が大通りの方 が多いことに気付き、 その理由について、 二つの場所を比較し、 関連付けて考えるこ とができた。

比較・関連付けて考え、 課題解決する。 光が当たったときの明



課題について予想し、そ れを数種類の実験方法を 用いて確かめている場面

# 事例を通した子供の変容

- ◇ 図画工作や社会で、比較・関連付けて考えること ができる知識・技能を段階的に身に付けたことによ り、理科や他教科等の学習において、見通しを立て る段階で比較して考えようとしたり、比較して調べ た結果を関連付けて課題解決したりすることができ るようになってきた。
- 「学びの履歴」を活用することで、子供たちは、 「比較・関連付けて考えることで、新しい考え(発 見)が出てくる」という、学びの深まりを自覚する ようになった。また、「普段から比べたらどうなる のかという考えを家でももつようになった」「他の 教科でももっと比べたり、関連付けたりして考えて いきたい」といったように、授業での学びが、次の 学びにつながるような反応が見られた。

### まとめ

各教科等において、比較・関連付けて考える内容は年 間指導計画に位置付けられているものの、それらの内容 を相互に関連させながら指導することに課題があった。

本事例では、小学校第3学年という発達段階を踏まえ て、2学期の始めから比較・関連付けて考えることを重 点的に指導することが効果的であると考えた。

また、各教科等の内容を見直し、図画工作「鑑賞」を 意図的に配置したり、理科「光の性質」の授業時数を7 時間から9時間に変更したりすることも、資質・能力を 育成するためには重要なことであると考えた。

今後学校は、教科等の内容を組織的に配列することに 併せて、資質・能力を育成する観点から、指導時期や授 業時数を柔軟に変更するなど、教育課程全体を見渡して 年間指導計画を立てていくことが求められる。

# 小学校第4学年 国語、社会、算数の内容を関連させた配列

- ◆ 学校教育目標(重点目標)
- ◆ 重点的に育みたい資質・能力

### 「よく考える子ども」



### 1 資質・能力に関連のある教科等の内容の整理

「情報の整理」「根拠」「考えの表現」に関連のある内容の整理

	 5月	6月	7月	8月	9月	10月	
国語	1場面の様子に作品を紹介	着目して読み、 トしよう			読	んで考えた <i>ことを</i> 話し合おう	
算数		3	垂直・平行と四角形			面積の はかり方と表し	方
社 会		2 ごみはどこへ	水はどこから				
:							

#### 2 整理した内容の組織的な配列

子供の実態

根拠を示しながら、自分の考えを 表現することが十分に身に付いていないため、 特に重視して知識・技能を育成する必要がある。

#### 配列1

複数の教科等の内容を段階的に配列する

1 国語 「場面の様子に着目して 読み、作品を紹介しよう」

学びに向かう力、 人間性等 知識・技能 思考力・判断力 ・表現力等

◇ 単元の内容

場面の移り変わりや、登場人物の気持ちなどに注意しながら読み、作品の中で心に残った言葉や作品の特徴、自分の感想などを紹介する。

◆ 資質・能力に係る評価規準 【知・技】根拠とする言葉や表 現を見付けることができている。

#### 資質・能力の育成を 図るためのポイント

登場人物の行動や会話などの 叙述を基に登場人物の気持ちを 想像したり、世の中の様子や出 来事について捉えたりすること ができる知識・技能を育成する。 2 社 会 「ごみはどこへ」 <sup>学びに向かうカ、</sup>

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

◇ 単元の内容

人々の生活にとって必要なごみの処理について調べ、衛生的な処理が、人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考える。

**資質・能力に係る評価規準** 

【知・技】ごみの処理について、 見学・調査したり資料を活用し て調べたりして、必要な情報を 収集・選択して整理することが できている。

#### 資質・能力の育成を 図るためのポイント

衛生的な生活を守るために働く人たちの思いや工夫を考えるという視点から必要な情報を整理することができる知識・技能を育成する。

3 算数 「垂直・平行と四角形」

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

◇ 単元の内容

四角形の特徴を明らかにするために、辺と辺の関係や角の大きさについて調べ、説明する。

◆ **資質・能力に係る評価規準** 【**思・判・表**】辺の長さや角の

【思・判・表】辺の長さや角の 大きさについて調べたことを基 に四角形の特徴を見いだし、説 明している。

【学・人】調べたことを基に四角 形の特徴を説明しようとしている。

#### 資質・能力の育成を 図るためのポイント

① 国語、② 社会で身に付けた 根拠になる必要な情報を整理する ことができる知識・技能を活用・ 発揮して、目的に応じて辺の長さ や角の大きさについて調べたこと を根拠に、四角形の特徴について 考え、表現する力を育成する。

#### 算数

根拠をもって、自分の考えを表現しようとする態度

算数

国語

社会

根拠になる必要な 情報を整理すること ができる知識・技能 学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

必要な情報を基に 根拠を明確にしなが ら自分の考えを表現 する力

### 子供の学びの在り方の変容

叙述に基づいて想像しながら 読むことができる。



登場人物の行動や会話に着 目し、登場人物の気持ちを想 像しながら読んでいる場面

登場人物の行動や会 話等の叙述を的確に選 べるようになった。

また、場面の様子や 出来事に関する叙述に も着目することを学び、 登場人物の気持ちを更 に豊かに想像できるよ うになった。

調べたことや既習内容を 根拠にして考え、表現する。



調べた辺の長さや角の大きさか ら必要な情報を取り出し、四角 形の特徴を見いだしている場面

四角形(台形、平行 四辺形、ひし形)につ いて、辺の位置関係や 長さ、角の大きさを調 べ、調べたことのうち 必要な情報を基に四角 形の違いに気付いて分 類し、四角形の特徴を 見いだすことができた。

調べた情報を 整理することができる。



清掃工場を見学した記録 から、考えを伝えるために 必要な情報を整理している 場面

学習を通して分かっ たことを新聞にまとめ るというめあてをもち、 清掃工場の見学の記録 や資料から得られた様々 な情報から必要な内容 を選んで整理し、それ を根拠に自分の考えを まとめることができた。

### 事例を诵した子供の変容

- ◇ 国語で、叙述に基づき登場人物の気持ちを想像し たり、場面の移り変わりを捉えたりして読むことが できる知識・技能を、また、社会で、目的に応じて 根拠とする必要な情報を整理して自分の考えを表現 することができる知識・技能を段階的に身に付けた。 この知識・技能を、算数の問題解決の学習過程にお いて活用・発揮させることで、図形の構成要素など の根拠を示しながら自分の考えを表現することがで きるようになった。
- 「学びの履歴」を活用することで、他教科等の学 習場面においても、「なぜそう考えるのか」という 理由を明確にして自分の考えを述べる姿が見られる ようになった。

### まとめ

判断の根拠や理由を明確に示しながら自分の考えを述 べたり、結果を分析して解釈・考察し説明したりするこ とについて、課題が指摘されている。

本事例では、子供の実態を踏まえて、根拠を示すとは どういうことか、また根拠を示すことで相手に分かりや すく伝えることができるといった知識・技能を身に付け ることに重点を置くこととし、国語や社会の内容を段階 的に配列した。複数の教科等の内容を通して、根拠とす る情報を収集・選択して考えを表現することを学び、そ れを活用・発揮することで、根拠を示しながら自分の考 えを表現する資質・能力を着実に育成することができた。

今後学校は、資質・能力を着実に育成するために、子 供の実態に応じて、全学年にわたって各教科等の年間指 導計画を柔軟に改善することが求められる。

### 中学校第2学年

道徳、総合的な学習の時間、技術・家庭(家庭分野)の内容を関連させた配列

- 学校教育目標(重点目標)
- 重点的に育みたい資質・能力

「健康・責任・創造|

自分の役割や責任を果たしながら、他者 や社会との関わりの中で、よい点はさらに伸 ばしたり、課題を明らかにして解決したりし ようとする自分らしい生き方を実現する力

#### 1 資質・能力に関連のある教科等の内容の整理

「自分との関わり」「他者との関わり」「社会との関わり」に関連のある内容の整理

	 9月	10月	11月	12月	1月	
道徳	1 自己を見つめる	役割と責任	社会参画			
総合的な 学習の時間		2	職場体験学習 (職場での体験	<b>食は11月下旬)</b>		
家庭					3 家庭生活と環境	
÷						

#### 2 整理した内容の組織的な配列

子供の実態

道徳では、自分、他者、社会との関 わりについての資質・能力が比較的身に付い ているが、他教科等では他者や社会との関わり の中で、自己を見つめることが希薄である。

#### 配列 2

一つの教科等の内容を軸に、 他教科等の内容を関連させながら配列する

1 道徳 「自己を見つめる」 学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

◇ 単元の内容

自己を見つめ、自己の向上を図 るとともに、個性を伸ばして充実 した生き方を考える。

◆ 資質・能力に係る評価規準

【知・技】自分の役割や責任を果 たし、よさや課題を理解している。 【学・人】自分の役割や責任を果 たそうとしている。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

単元を通して、自分の生活を振 り返ったり、これから先の生活を 考えたりすることで、他者や社会 の中での自分を見つめ、自分のよ さや課題について考える力を育成 する。

🔼 総合的な学習の時間 「職場体験学習」

学びに向かう力、 人間性等

思考力・判断力 ・表現力等 知識・技能

◇ 単元の内容

学ぶことの意義や働くこと の意義を理解し、生きること の尊さを実感する。

◆ 資質・能力に係る評価規準

【思・判・表】自分の課題を解決するため に必要なことを考え、実践している。 【学・人】自分の役割や責任を果たしなが ら、他者や社会と関わり、課題を解決しよ うとしている。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

1道徳で身に付けた資質・能力を活用・ 発揮して、働く上で社会や他者との関わりを 意識しながら「自分らしい生き方」とは何か 追究し、それらを実現するために課題の解決 を図ることを通して資質・能力を育成する。

技術・家庭 (家庭分野) ◆ 資質・能力に係る評価規準 3 「家庭生活と環境」

学びに向かう力、

思考力・判断力・表現力等 知識・技能

単元の内容

自分や家族の消費生活が環 境に与える影響について考え、 環境に配慮した消費生活につ いて工夫し、実践する。

【思・判・表】生活を振り返って課題を明 らかにし、解決するために必要なことを考 えている。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

1道徳で身に付けた資質・能力を活用・ 発揮して、社会生活に視野を広げて、消 費生活の在り方について考えることを通 して資質・能力を育成する。

道徳 総合的な学習の時間

自分の役割や責任を果たして、他者や社会と関わり、 課題を解決しようとする意欲や態度

道徳 総合的な学習の時間)技術・家庭

道徳

役割や責任、自分 のよさや課題につい て理解することがで きる知識・技能

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

他者や社会との関 わりの中で、自分の 課題を解決するため に何が必要かを考え るカ

#### 3 子供の学びの在り方の変容

自分との関わりの中で、 課題を見いだす。



第1学年で作成した「ドリー ムマップ(将来の夢)」を活 用して、今の生活を振り返っ て自己を見つめる場面

自分らしい生き方 とは何かについて、 自分の性格や生活を

振り返り、自分のよ さや課題を見付け、 今後の生活について 考えることができた。

消費生活を振り返り、 社会生活を考える。



環境に配慮した消費生 活について工夫すること を考えている場面

使い捨て容器とリサイクル 可能な容器とを比較し、生活 の仕方と環境とのつながりや、 環境に配慮した消費生活が循 環型社会を形成する基盤とな ることに気付くなど、社会と の関わりの中で生活していく ことの大切さについて考える ことができた。

### 他者や社会との関わりの中で、 自分らしい生き方を探す。



自分の課題に対して、 解決しようと実践してい る場面

<事後の子供のアンケートから>

- 話すことが苦手だからと いって、下を向いていて はいけない。相手の目を 見て、笑顔で接すること で、相手は喜んでくれる。
- つらいことがあっても、 家族のため、人のため、 社会のために働いていく ことが大切だ。など

自分らしい生き方とは 何かを再度考え、自分の 課題に対して解決しよう とする意欲をもつことが できた。

#### 事例を通した子供の変容 4

- 道徳以外の教科等では、自分らしい生き方とは、 「自分のやりたいことを実現すること」という意 見が大半を占めていた。
- 道徳で身に付けている資質・能力を意識して学 習を進めていくことで、自分との関わりの中で、 他者や社会との関わりを意識し、自分の課題を再 認識しながら解決しようとする姿が見られ、自分 らしい生き方とは、他者や社会との関わりの中で 見付けられるものであると捉えられるようになった。
- 「学びの履歴」では、自己を見つめることから 他者や社会に視野を広げていくことで、徐々に他 者や社会との関わりの中で、自分のよさや課題を 見付けられるようになったことを自覚する姿が見 られた。

#### 5 まとめ

本校では、キャリア教育の重点目標の第一に「将来への 自立と自分らしい生き方の実現」を掲げている。子供に重 点的に育みたい資質・能力を育成するためには、まず全て の教員が「自分らしい生き方とは何か」ということを、具 体的な子供の姿として共通理解する必要がある。

本事例では、「自分らしい生き方を探す」ことをテーマ に掲げ、各教科等の学習や生活場面において、それらを実 現する上での課題を見付け、解決しようとする力を活用・ 発揮することを子供に意識させながら教育活動を展開した。

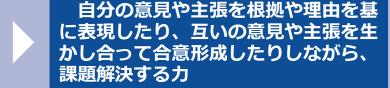
今後学校は、本事例のように、資質・能力を育成する観 点から、職場体験など既存の特色ある教育活動を見直し、 各教科等の内容とのつながりを意識した取組を行っていく ことが求められる。

# 中学校第3学年 国語、社会、音楽の内容を関連させた配列

◆ 学校教育目標(重点目標)

◆ 重点的に育みたい資質・能力

「共 生」



1 資質・能力に関連のある教科等の内容の整理

「意見や主張」「根拠や理由」「合意形成」に関連のある内容の整理

	 9月	10月	• • •
国語	1 話し合って提案をまとめよう 訪	2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2. 2	
社会	2 現代を見方や		
音楽		表現を工夫しよう	
特別活動		合唱コンクール	
:			

#### 2 整理した内容の組織的な配列

子供の実態

国語では根拠や理由を明確にして表現することができているが、他教科等では自分の思ったことや感じたことのみを表現する傾向がある。

#### 配列 2

一つの教科等の内容を軸に、 他教科等の内容を関連させながら配列する

1 国語

「話し合って提案をまとめよう」

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

◇ 単元の内容

自分の経験を整理して、理由を 基に説得力のある話をする。

課題解決に向けて互いの考えを 生かし合う。

◆ 資質・能力に係る評価規準

【思・判・表】理由を基に説得 力のある話をしている。

【学・人】課題解決に向けて互いの意見を生かし合おうとしている。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

単元を通して、理由を明確にして 説得力のある話をすることができたり、 課題解決に向けて互いの考えを生か し合うことができたりするようにして、 「三つの柱」をバランスよく育成する。 2 社会

「現代社会の見方や考え方」

学びに向かうカ、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

◇ 単元の内容

社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考え、対立と合意、効率と公正について理解する。

◆ 資質・能力に係る評価規準

【思・判・表】対立の立場から合意を得られるように根拠を基に主張し、表現している。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

●国語で身に付けた資質・能力を活用・ 発揮して、他者から合意を得られるよう に、根拠を基にして主張し表現する力を 育成する。

#### 3 音楽 「表現を工夫しよう」

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能 思考力・判断力・表現力等

◇ 単元の内容

声部の役割と全体の響きと の関わりを理解して、表現を 工夫しながら合わせて歌う。

#### ◆ 資質・能力に係る評価規準

【学・人】話合いを通して、互いの意見を 生かし合いながら表現を工夫して歌うこと に主体的に取り組もうとしている。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

●国語で身に付けた資質・能力を活用・発揮して、グループの合唱の課題を各自が理由をもって話し合うことを通して、互いの意見を生かし合いながら表現を工夫して歌うことに主体的に取り組む態度を育成する。

国語 音楽

互いに意見や主張を生かし合いながら 課題解決しようとする態度

国語

根拠や理由を明確 にすることができる 知識・技能

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

国語

社会

意見や主張を相手 に伝えるために、適 切な情報は何かを判 断し、根拠や理由を 基に表現する力

#### 子供の学びの在り方の変容 3

互いの意見を生かし合いながら、 つの結論を導く。



「合唱コンクール」をデ に、学級の課題は何か、解決 するために何を提案するかなど、 その理由を明らかにする場面

今までの取組を振り返 り、課題解決するために、 なぜそれを取り上げたの か理由を付けて考え、提 案できた。

話し合いでは、互いの 意見を尊重し、生かし合 いながら一つの結論を導 くことができた。

根拠や理由を基に表現し、 合意形成を図る。



根拠や理由を基に考えたこ とを伝え、相手を説得しよう としている場面

相手を説得するため に根拠を明確にして主 張したり、相手の主張 に反論するために根拠 をもったりするなど、 根拠を基に表現するこ とができた。

### 互いの意見を生かし合い、 表現を工夫する。



各パートで歌った後、 たことについて理由を明らかにし て説明し、共通理解を図る場面

自分たちの合唱について、 理由を明確にして課題を伝 え合うことができた。

パートリーダーは、メン バーの課題について理由を 基に判断し、意見を生かし ながら合唱の表現を工夫す ることにつながるめあてを 立てることができた。

#### 事例を通した子供の変容 4

- ◇ 今までは自分の思いや考えだけを述べて いた子供が、国語で身に付けた資質・能力 を意識して学習を進めていくことで、根拠 を基に考えたり、理由を付けて表現したり することができるようになった。また、そ れに伴い、相手の意見や主張について根拠 や理由を基に判断して、合意形成を図る姿 が見られるようになった。
- 「学びの履歴」を見直しながら学習を進 めていくことで、これまでの話合い活動で は自分の意見を伝えるだけであったが、根 拠や理由を基に話したり聞いたりして、互 いの意見を生かし合いながら課題解決する 姿が見られた。

#### まとめ 5

各教科等の学習で話合い活動を取り入れてはいるものの、対話 的な学びになっておらず、特定の子供の意見や考えで課題のまと めが行われる傾向がある。

本事例では、他者と対話しながら課題解決ができるように、根 拠や理由を基に意見や主張を表現したり、相手の意見や主張につ いて根拠や理由を基に取り入れたりして合意形成が図られるよう に配列を工夫するとともに、内容の見直しを行った。

そして、その後の合唱コンクールへとつなげて、完成度を高めるこ とや賞を取ることに目的が置かれる傾向にあった学校行事を、その取 組の過程で互いの意見を根拠や理由を基に生かし合い互いに合意を 得ながら課題解決することをねらいにした活動にすることができた。

今後学校は、各教科等で学習したことを次の学習や学校生活に 生かし、教育課程全体を通して「三つの柱」のどの資質・能力も バランスよく育成していくことが求められる。

# 小学校第6学年 国語、社会、総合的な学習の時間の内容を関連させた配列

- ◆ 学校教育目標(重点目標)
- ◆ 重点的に育みたい資質・能力

「よく考える子」



1 資質・能力に関連のある教科等の内容の整理

「課題の設定|「協働|「考えの創造|に関連のある内容の整理

	 9月	10月	11月	12月	1月	2月	
総合的な 学習の時間		市のよさをアト	ピールしよう	•	市の未来づく	りプラン	
国 語		さを伝える ッットを作ろう	未来をよくするが の意見文を書こ	<b>きめ</b> 感じたことを <b>表</b> 現しよう			
社 会				2わたした 生活と政	ちの 対治		
÷							

2 整理した内容の組織的な配列

子供の実態

全ての教科等において、「三つの柱」のどの資質・能力もおおむね身に付いているため、更に高めていく必要がある。

配列 3

複数の教科等の内容を統合するように配列する

1 国語

「未来をよくするための 意見文を書こう」

学びに向かう力、 人間性等 思考力・判断力 ・表現力等

◇ 単元の内容

自ら課題を設定し、目的や 意図に応じて情報を集めて、 意見を記述した文を書く。 ◆ 資質・能力に係る評価規準

【思・判・表】複数の資料から自ら課題を 設定し、目的や意図に応じて話したいこと が明確に伝わるように話の構成を工夫して、 表現している。

資質・能力の育成を図るためのポイント

単元を通して、課題を設定し、目的に 応じて必要な資料を収集・整理すること ができる知識・技能や、目的や意図に応 じて意見を表現する力を育成する。

2 社会

「私たちの生活と政治」



◇ 単元の内容

地方公共団体が市民の願い を取り入れながら国と協力し ていることについて理解し、 政治の働きについて考える。 **◆ 資質・能力に係る評価規準** 

【知・技】私たちの生活と政治との関わりについて調査・取材したり、資料を活用したりして調べ、必要な情報を収集・整理することができている。 【学・人】よりよい生活をしていくために必要なことを地域の人との対話を通して考えようとしている。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

単元を通して、課題解決に必要なことを調べ、よりよい生活をしていくために必要なことを考える力や、地域の人との対話を通して新たな考えをつくり上げようとする態度を育成する。

3 総合的な学習の時間 「市の未来づくりプラン」

> 学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

◇ 単元の内容

市の現状と課題を捉え、よりよい未来にしていくための「市の未来づくりプラン」を作成し、保護者や地域の人に提案する。

◆ 資質・能力に係る評価規準

【思・判・表】目的や意図に応じて、筋道を立てて考えを表現している。

【学・人】自ら設定した課題の解決に向けて他者と協働しながら、新たな考えをつくり上げようとしている。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

①国語、②社会で身に付けた資質・能力を活用・発揮して、筋道を立てて考えを表現する力や他者と協働して新たな考えをつくり上げようとする態度を更に育成する。

国語 社会 総合的な学習の時間)

国語 社会

目的や意図に応 じて必要な情報を 収集・整理するこ とができる知識・ 技能

課題解決に向けて、他者と協働して よりよい考えを創造しようとする態度

> 学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力

・表現力等

国語 社会 総合的な学習の時間

> 自ら課題を設定し、 他者の考えも受け入 れながら新たな考え を創造する力

#### 3 子供の学びの在り方の変容

複数の資料から課題を設定し、 新たな考えを創造する。



友達との話し合いの後、相 手に何を伝えたいのかを考え、 意見を記述している場面

資料を読んで更に調べ たいと思ったことを課題に したり、資料などから自 分の考えを意見として表 現したりするなど、自ら 課題を設定し、その課題 について調べたり、自分 の考えを意見文として表 現したりすることができた。

相手意識をもち、 よりよい考えを創造する。



地域の人の願いをまとめて、 よりよい生活にしていくために 必要なことを考えている場面

地域の人が何を望ん でいるかについて地域 の人と対話したり、課 題解決に向けて友達と 協働したりして取り組 むことを通して、より よい考えを創造するこ とができた。

新たなアイディアを 創造する。



グループで協議した後、協議し た内容を踏まえて「市の未来づく りプラントを作成している場面

市の現状や課題につ いて資料で調べたり、 住民の願いを聞いたり して、「市の未来づく りプラン」の案を作成 した。その後、グルー プで話し合い、友達の 考えのよいところを取 り入れるなど、友達と 協働しながら新たなア イディアを創造するこ とができた。

### 事例を通した子供の変容

- 国語や社会で身に付けている課題を設定す る力や、その課題を解決するために資料を調 べたり、調べたことを基に考えたりする力を、 総合的な学習の時間において生かしていくこ とで、与えられた課題ではなく、自分の課題 について調べ、市の未来をよくしていくため の新たなアイディアを創造することができた。
- 「学びの履歴」では、友達や地域の人との 協働により、多様な視点から課題について考 えるようなったことを自覚している反応が見 られた。また、課題を設定するためには、事 前に様々な資料を調べたり、友達と話し合っ たりすることが重要であることを9割以上の 子供が自覚するようになった。

#### まとめ 5

総合的な学習の時間で地域を題材とした活動が実践されては いるものの、他教科等の学習との関連は十分ではなく、単独で 行われている傾向がある。

本事例では、資質・能力を育成する観点から、各教科等で身 に付けた資質・能力を総合的に活用・発揮するために国語や社 会の内容だけではなく、理科「生物と環境」、道徳「郷土の伝統 と文化の尊重、郷土を愛する態度 | 等の内容も配列した。その 際、総合的な学習の時間で既習の内容が十分に活用・発揮でき るよう、組織的に配列した教科等においても地域の人的・物的 資源を活用したことは効果的であった。

今後学校は、資質・能力を育成する観点から総合的な学習の時 間の内容と各教科等の内容との関連を意識して配列を行うことを重 視して、年間指導計画を見直し、改善していくことが求められる。

# 中学校第1学年 理科、数学、総合的な学習の時間の内容を関連させた配列

- ◆ 学校教育目標(重点目標)
- ◆ 重点的に育みたい資質・能力

「ともに学ぶ」



複数の考えや情報を比較したり、関連付けたりすることで、課題解決を図 ろうとする力

#### 1 資質・能力に関連のある教科等の内容の整理

「比較 | 「関連 | 「課題解決 | に関連のある内容の整理

	 6月	7月	8月	9月	10月	11月	
総合的な 学習の時間	まちの強ん	み・弱み			3 まちの活	性化に向けて	
数学				2 量比例	の変化と  ・反比例		
理科	1 植物のなかま分け						
i i							

#### 2 整理した内容の組織的な配列

子供の実態

全ての教科等において、「三つの柱」のどの資質・能力もおおむね身に付いているため、更に高めていく必要がある。

配列 3

複数の教科等の内容を統合するように配列する

 理科 「植物のなかま分け」



◇ 単元の内容 被子植物は、体のつくりの 特徴に基づいて分類できることを見いだす。 **◆ 資質・能力に係る評価規準** 

【知・技】植物の分解・観察を通して、植物の体のつくりを比較し、特徴を基に分類することができている。

【思・判・表】被子植物について、つくりの特徴を分析・比較検討し、自らの考えを 導いたりまとめたりして、表現している。

資質・能力の育成を図るためのポイント

植物の各部位を比較して、植物によるつくりの特徴を理解するための知識・技能や、つくりと働きを関連付けて考える力を育成する。

2 数学「量の変化と比例・反比例」



◇ 単元の内容 表や式、グラフを相互に比 較・関連付けて考察すること で、2つの数量の変化を捉え て説明する ◆ 資質・能力に係る評価規準

【思・判・表】表や式、グラフを関連付けて考え、比例や反比例の特徴を説明することができる。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

表や式、グラフを関連付けて、変化の 様子を比較しながら調べることで、比較・ 関連付けて考える力を育成する。 3 総合的な学習の時間 「まちの活性化に向けて」

> 学びに向かうカ、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

◇ 単元の内容

自分たちが住むまちの活性化を 目指して、他のまちと比較したり、 関連付けたりして活性化を図るた めの視点を設定し、解決の方法を 考え、発表する。

◆ 資質・能力に係る評価規準

【思・判・表】比較・関連付けて考え、課題解決の方法を考えている。 【学・人】複数の情報を比較したり、調べる目的と関連付けたりして考え、主体的に課題解決しようとしている。

#### 資質・能力の育成を図るためのポイント

①理科、②数学で身に付けた 資質・能力を活用・発揮して、 複数の考えや情報を比較・関連 付けて考え、主体的に課題解決 しようとする態度を更に育成する。 理科 数学 総合的な学習の時間)

複数の考えや情報を比較・関連付けて課題解決の 方法を考え、主体的に解決しようとする意欲や態度

理科 数学 総合的な学習の時間

理科 数学

複数の情報を比較・ 関連付けて考えること ができる知識・技能

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力 ・表現力等

- 比較・関連付けて多 面的に考える力
- 比較・関連付けて得 られた結果を考察して、 課題解決する力

#### 子供の学びの在り方の変容 3

観察して得られた情報を比較して、 その結果を考察することができる。



複数の情報を比較して共通点や相違点に 着目し、植物の特徴を見いだしている場面

色々な植物を観察 し、花や葉、茎、根 のつくりを比較・関 連付けて分類するこ とを通して、植物の 種類を知る方法につ いて考察することが できた。

比較・関連付けて 主体的に課題解決する。



自分たちが住むまちの弱みを強み に変えるためのプランを、校外学習 の記録を基に作成している場面

自分たちが住むまち の弱みを強みに変えて いくために、弱みを様々 な視点で捉え、それら の課題を解決していく ために、他のまちと比 較して、活性化に向け てのプランを考えるこ とができた。

### 複数の観点で関連付けて考え、 課題解決する。



比例・反比例の表や式、 グラフの関係について考え、 特徴や規則性を説明してい る場面

比例定数とyの増加 量、比例定数とグラフ などを関連付けて、複 数の観点で比例・反比 例の特徴を見いだすこ とができた。

#### 事例を通した子供の変容 4

当初、子供は、一度導いた考えを他の視点から見直 すことに課題があった。そこで、理科や数学で比較・ 関連付ける力を身に付け、それを他教科等で活用・発 揮できるように配列したことで、課題に対して、様々 な視点から考え、それらを関連付けて課題解決するこ とができた。

総合的な学習の時間の学習では、まちの活性化を考 える内容において、自分たちが住むまちと他のまちとの 強みや弱みの相違点を比較・関連付けて、活性化に向 けた課題解決の方法を考える姿が見られるようになった。

「学びの履歴」では、子供が資質・能力に関連のある内容を学習した際に、子供たち自身にどのように考 えたのかということを意識して書くようにさせた。初 めは比較した対象のことしか書けていなかったが、な ぜそうなるのかという問いをもつようにしたことで、 それらが次の学習の展開につながった。

#### まとめ 5

総合的な学習の時間は、各学校で目標及び内容を定めては いるものの、前年度の内容を見直して改善を図るといったこ とが実践されていない傾向がある。

本事例では、総合的な学習の時間において、各教科等で身に 付けた資質・能力を活用・発揮し、その学びを実社会で活用す ることができるように各教科等の内容と関連させて配列した。

総合的な学習の時間において、多面的な視点から課題を捉 えるために複数の情報を比較したり、比較して分かったこと を関連付けたりして、まちの活性化につながるプランを考え ることで、実社会で活用できる資質・能力を育成することが できた。

今後学校は、資質・能力を育成する観点から、既存の教育 活動を見直し、教育課程全体の中での位置付けを明確にして、 資質・能力が活用・発揮できるように各教科等の配列を検討 していくことが求められる。

#### マネジメント 推進部会 【視点2】教育内容の質の向上に向けた教育活動のPDCAサイクルの推進

### 1 重点的に育みたい資質・能力を育成する観点からの教育活動のPDCAサイクルの推進

#### Plan

資質・能力を育成する 内容を明確にする。



重点的に育みたい資 質・能力を「三つの柱」 で整理する。

教育課程全体を見渡して、「三つの柱」ごとの具体的な資質・能力をどの教科等のどのような内容を通して育成するかを検討し、明確にする。

「三つの柱」ごとに 明確にした各教科等の 内容に係る単元の指導 計画のどの評価場面で 評価するかを明確にする。

#### Do

資質・能力を 育成することを 意識して指導を 実施する。 資質・能力を育成する観点から、適宜工夫・ 改善を図りながら、指導を実施する。



#### Check

資質・能力を育成する 内容であったかを 評価する。



資質・能力を育成するために指導計画の内容は適切であったか、 子供の学習状況を踏まえて評価する。

- ・子供の学習状況を単元の 評価規準に照らして評価 する。
- 指導計画の内容が適切であったかを評価する。

#### Action

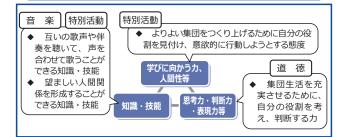
資質・能力を更に 育成するために 内容を改善する。 資質・能力を育成する観点から各教科等の 指導計画の内容を修正 したり、次年度の教育 課程の編成に生かした りする。

・今ある各学年の各教科等の年間指導計画に、適切な学習活動や授業時数、人的・物的資源等を明記する。

< 例) 学校行事に係る各教科等の教育活動の見直し (中学校・合唱コンクール)>

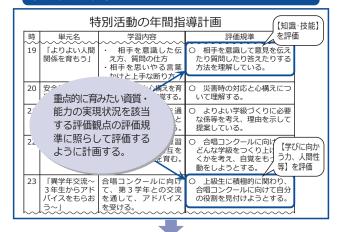
<重点的に育みたい資質・能力> 「よりよい生活や人間関係を主体的に形成する力」の場合

#### 重点的に育みたい資質・能力を「三つの柱」で整理する。



特別活動の年間指導計画に、重点的に育みたい資質・能力を育成することを明記する。

# 特別活動のどの単元の評価規準に照らして評価するかを明記する。



#### 合唱コンクールの取組における子供の学習状況を 単元の評価規準に照らして評価する。

第1学年と3学年の合同練習を通して、第1学年の子供の7割程度は、第3学年の姿を見て、自分の役割について具体的に考えようとしていた。【学・人】

# 合唱コンクールの取組に係る単元の指導計画の内容が適切であったかを評価する。

第3学年との合同練習という内容は適切であったが、授業時数は当初計画していたよりも増やす必要があった。

第3学年の指導計画も変更する必要がある。

#### 合唱コンクールの取組に関連する各学年の各教科 等の単元の指導計画の内容を修正する。

第1学年だけではなく、第2・3学年についても、 各教科等の年間指導計画に資質・能力を育成する内容を明確に位置付ける。

### 教育内容に焦点を当てた、指導計画や学習活動などの計画・実施・評価・改善



資質・能力に係る評価規準に照らして、指導計画や学習活動などの 内容が適切であったかを評価する。

資質・能力を育成する観点から子 供の学習状況を評価することにとど まらず、それを踏まえて指導計画や 学習活動などの内容が適切であった かを評価することが大切である。

- 資質・能力が身に付いている場合は、適切な内容であっ たと判断
- 資質・能力が身に付いていない場合は、指導計画の内 容や学習活動、人的・物的資源の活用が適切ではなかった と判断

# Action

指導計画や学習活動などの内容の評価を踏まえて、各学年の各教科 等の年間指導計画の内容を修正する。

資質・能力を更に育成するために、 評価した指導計画や学習活動などの 内容についての改善策を検討し、年 間指導計画の内容を修正して、次年 度の教育課程の編成につなげていく ことが大切である。

- 資質・能力を育成するための内容
- 資質・能力を育成するために必要な授業時数
- 資質・能力を育成するために必要な人的・物的資源の 活用 等

# 実践事例一覧

事例名	重点的に育みたい資質・能力	事例の概要	ページ
中学校 学校行事に係る各教科 等の教育活動の改善	よりよい生活や人間関係を 主体的に形成する力	合唱コンクールに係る一連の指導を通して、資質・能力を育成する観点から各教科等の指導計画を検証し、関連する各学年の各教科等の教育活動の見直しにつなげる。	23 • 24
小学校 校内研究の推進	筋道を立てて考え、表現す る力	算数の校内研究を通して、資質・能力を 育成する観点から、単元の指導計画や年間 指導計画を検証し、修正することで日々の 授業につなげる。	25 • 26
小・中学校 小・中学校合同の 「学園研究」の推進	多様な視点から考察し、筋道 を立てて課題解決に取り組む 力	小中一貫教育校で取り組む校内研究を通して、資質・能力を育成するために、各学年・教科等を越えて、小・中学校9年間の各教科等の指導計画を検証し、日々の授業につなげる。	27 • 28
小学校 総合的な学習の時間に 係る指導計画の見直し	相手を意識して進んで表現する力	総合的な学習の時間の教育活動の見直し を通して、資質・能力を育成する観点から全 体計画や各学年の年間指導計画を検証し、関 連する教科等の指導計画の見直しにつなげる。	29 • 30
中学校 オリンピック・パラリ ンピック教育に係る各教 科等の指導計画の見直し	社会の一員として地域のた めに貢献しようとする力	オリンピック・パラリンピック教育を通して資質・能力を育成するために、ボランティアマインドの醸成の観点から総合的な学習の時間等の指導計画を検証し、各教科等の指導計画の見直しにつなげる。	31 • 32
小学校 学校評価の見直し	自他の価値を尊重しようと する意欲や態度	学校評価の項目を、日々の教育活動は資質・能力を育成することができたかという 視点で変更することで、教育課程全体を通 して重点的に育みたい資質・能力の育成を 図ることにつなげる。	33 • 34

# 中学校 学校行事に係る各教科等の教育活動の改善

学校教育目標(重点目標)

重点的に育みたい資質・能力

「よき社会人となる生徒」

よりよい生活や人間関係を 主体的に形成する力

#### 重点的に育みたい資質・能力を育成するPDCAサイクル 1

本校では、「よりよい生活や人間関係を主体的に形成する力」を育成するために、合唱コンクールに係る実施 計画や各教科等の指導計画を見直し、教育活動の改善に取り組むこととした。

この資質・能力の育成を図るために、合唱コンクールの実施計画に重点的に育みたい資質・能力を明記すると ともに、第1学年の音楽、道徳、特別活動の年間指導計画及び各単元(題材)の指導計画における位置付けを明 確にして、指導を実施した。

本事例で取り上げたのは、第1学年の合唱コンクールの指導におけるPDCAサイクルの実践である。

# Plan(文化行事委員会・学年会)

#### 実施計画の作成、 年間指導計画上の位置付けの明確化

- 合唱コンクールの実施計画に、重点的に育 みたい資質・能力と、どの教科等のどのよう な内容を通して育成するかを明記した。
- 各教科等の年間指導計画の該当する内容に 印を付けて明確にした。



#### 実施計画及び各教科等の 年間指導計画の内容の修正

○ 第1学年の合唱コンクールに向け た取組をモデルに、他学年における 指導についても検討し、各教科等の 年間指導計画に位置付けた。

よりよい 生活や 人間関係を 主体的に 形成する力

# Do【授業】

#### 各教科等の授業の実施

- 資質・能力の育成を意識して、各 教科等の授業を実施した。
- 例) 音楽

パートごとの練習の仕方や声を合わせて歌 う技術を高めるための練習の仕方についても 指導した。



# Check【学年会】

#### 各教科等の年間指導計画の 内容の評価

○ 資質・能力が育成されたかどうか、各教科等の 単元(題材)の評価規準に照らして判断し、指導 計画の内容が適切であったかどうかを評価した。

パートリーダーなど決まった役割をもたない子供は、 自分の課題として捉えることが難しかった。「自分に何ができるか」ということを主体的に見付け実践する態度 について、役割と責任を自覚する内容で継続的に育成す る必要がある。

#### 音楽 特別活動

- 互いの歌声や伴奏 を聴いて、声を合わ せて歌うことができ る知識・技能
- 望ましい人間関係 を形成することがで きる知識・技能

2

よりよい集団をつくり上げるために、 自分の役割を見付け、意欲的に行動しようとする態度

> 学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

道徳

特別活動

集団生活を充実 させるために、自 分の役割を考え、 判断する力

思考力・判断力 ・表現力等

### PDCAサイクルの推進の実際

# Plan 実施計画の作成、年間指導計画上の位置付けの明確化

合唱コンクールの実施計画に重点的に育みたい資質・能力を明記し、音楽、道徳、特別活動の年間指導計画を 添付して、どのような内容を通して育成するかを明確にした。

#### 実施計画に資質・能力を明記

平成28年9月1日 文化行事委員会

#### 平成28年度「合唱コンクール」実施計画

### 重点的に育みたい資質・能力

「よりよい生活や人間関係を主体的に形成する力」 ○ 互いの歌声や伴奏を聴いて声を合わせて歌うことが [知•技] できる知識・技能 (音楽)

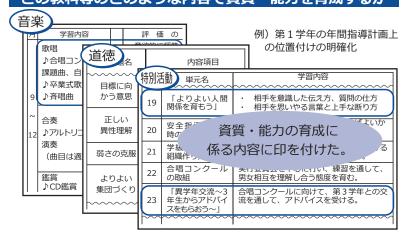
望ましい人間関係を形成する知識・技能(特別活動) 【思·判·表】 集団生活を充実させるために、自分の役割を考え、

判断する力(道徳) ○ よりよい集団をつくり上げるために、自分の役割を

見付け行動しようとする態度(特別活動) 1 ねらい

- (1) 合唱コンクールの取組を通して、自分の役割を果たしながら、より よい学級集団を主体的に形成しようとする態度を育成する。
- (2)練習や準備を通して、 生徒の自主的・自発的な態度を育て、 人が意欲的に取り組む姿勢を養う。

### どの教科等のどのような内容で資質・能力を育成するか



#### 各教科等の授業の実施 例)特別活動

体験活動を通して身に付けたコミュニケーション力を活用して第3学年の子供と交流し、合唱の取組について のアドバイスを受ける活動を設定した。

#### 特別活動「よりよい人間関係を育もう」



質問の仕方や頼 み方、断り方につ いて、互いに役割 を替えながら体験 的に身に付けるこ とができた。

#### 「異学年交流 ~3年生からアドバイスをもらおう~」 特別活動



日頃、交流の少ない第3学年の 子供と、互いの合唱を聴き合い、 練習方法や協力して取り組む上で のアドバイスを受けた。

第3学年の子供にとっても、学 校のリーダーとしての自覚を促す 意義のある活動となった。

#### まとめ 3

学校行事は、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こう とする自主的・実践的な態度を育てることがねらいである。しかし、学校によっては、学校行事としての完成度を 高めることや賞を取ることに指導の重点が置かれている傾向がある。

本事例は、合唱コンクールに係る一連の指導を、学校が重点的に育みたい資質・能力の観点から見直し、各教科 等の教育活動の改善を図ることを提案するものである。

学校行事に係る一連の指導について、資質・能力を育成するという目的を明確にし、どの教科等のどのような内容 を通して行うのかという位置付けを明確にすることにより、各教科等の教育活動の質の向上が図られることが分かった。 今後は、第1学年の合唱コンクールの指導をモデルに、第2・3学年においても、資質・能力を育成する観点か ら、各学校行事の指導の在り方を見直していくことが大切である。

# 小学校 校内研究の推進

学校教育目標(重点目標)

「すすんで学ぶ子」

重点的に育みたい資質・能力

筋道を立てて考え、表現する力

#### 重点的に育みたい資質・能力を育成するPDCAサイクル 1

本校では、「筋道を立てて考え、表現する力」を育成するために、「三つの柱」の思考力・判断力・表現力等に 係る「見通しをもち、既習事項を活用して考え、表現する力」の育成を校内研究の研究主題に据えて、主に算数 を通して全学年にわたって取り組むこととした。

この資質・能力の育成を図るために、子供が既習事項を活用して、自分の考えを言葉、数、式、図、表、グラフ を用いて表現しながら問題解決に向かうことに重点を置いて単元の指導計画を作成し、全学年が研究授業を行った。 本事例で取り上げたのは、小学校第3学年・算数の単元「かけ算のひっ算」の研究授業におけるPDCAサイク ルの実践である。

# Plan【指導案検討会】

#### 単元の指導計画及び本時の指導案の作成

- ◇第3学年 23×3の計算の仕方を考えよう
- 本単元の指導計画に、内容の系統性に加え て、それに関連するこれまでの学習活動やこ れから経験する学習活動を明記した。
- 本時の指導案に、本時で活用させたい既習 事項として「20×3の計算の仕方、数を分けて 考えるという考え方」を明記した。

# Action [学年会·研究全体会]

#### 年間指導計画の内容の修正

- 第3学年の年間指導計画の内容を 見直し、活用させたい既習事項や学 習活動を明記した。
- 各学年の年間指導計画及び習熟度 別指導の各コースの指導計画の内容 を修正した。
  - 数を分けて考えるという考え方を活用す る内容について年間指導計画に印を付ける とともに、学習活動の詳細を書き添えた。

筋道を立てて 考え、 表現する力

# Do【研究授業】

#### 研究授業の実施

<授業者>

- 既習事項を活用して、自分の考えを 言葉、数、式、図、表、グラフを用 いて、ノートにかくように促した。
- <参観者>
- 評価規準に照らして、子供のノー トの記述や話合いの内容から資質・ 能力の定着・活用状況を把握した。
- 子供の学習状況を踏まえて、他学年の 年間指導計画の成果や課題を把握した。

# Check【研究協議会】

#### 単元の指導計画及び年間指導計画の 内容の評価

- 子供に資質・能力が育成されたかどうか単元 の評価規準に照らして判断し、指導計画の内容 や学習活動が適切であったかどうかを評価した。
- 本時の子供の学習状況から、学習経験を踏 まえて他学年の年間指導計画の内容や学習活 動は適切であったかどうかを評価した。

問題解決の過程の妥当性を検討しようとする態度

国語

考えたことや伝え たいことなどについ て、的確に表現する ことができる知識・ 技能

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

算数

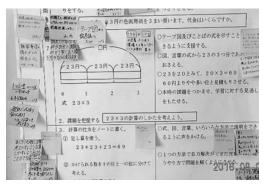
理科

見通しをもち、 既習事項を活用し て考え、表現する力

#### PDCAサイクルの推進の実際 2

# neck 資質・能力を育成するための指導計画の内容であったかを評価

研究協議会で、子供に資質・能力が育成されたか、そのための単元の指導計画の内容として適切であったかを評価した。



#### 単元の指導計画の内容は適切であったか

資質・能力に係る評価規準

【思・判・表】 2位数に1位数をかける乗法の計算の仕方を考えている。

思考力・判断力

・表現力等

既習事項を活用して数を分けて考え、表現することができた子供の割合は、全 体の7割程度であった。

習熟度別指導の補充コースの子供たちは1時間扱いでは難しいと考え、前時の 内容を2時間扱いで設定した。既習事項の定着が図られたことから、単元の指導 計画の内容や学習活動は適切であった。

#### 他学年の年間指導計画の内容は適切であったか

他学年においては、数を分けて考えるという考え方が十分に身に付いていない 実態が見られるため、年間指導計画の内容を見直す必要がある。

# 資質・能力を更に育成するために指導計画の内容を修正・改善

学年会や研究全体会で、資質・能力を育成するための内容や学習活動を検討し、年間指導計画を修正した。

#### 第3学年の年間指導計画の内容の修正

研究協議会での協議を踏まえて、 学年会で改善策を検討した。

改善策として活用させ たい既習事項や学習活動 を検討して年間指導計画

- 上に明記した。 ●何十,
- 2~3位数に1位数をかける乗法と筆算形式 乗法の結合法則
- 発展 乗法の筆算の拡張 (乗数が1位数)
- 何十を1位数でわる除法の計算(余りなし)

2位数÷ 1位数で、十の位と一の位でわりきれる除法



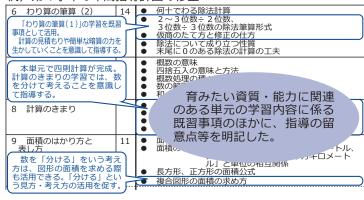
分配法則の考え方を活 用できるようにする。

> 第2時の23×3は 第 1 時の 20×3 の式を 活用して考えることがで きるように意識させる。

補充コースは導入の 時間を1時間増やす。

#### 各学年の年間指導計画の内容の修正

例)第4学年の年間指導計画の修正



#### まとめ 3

● 倍の第二用法,第一用法

これまでの校内研究では、板書や発問、学習活動等の工夫といった効果的な指導の在り方を追究することに重点が 置かれてきた傾向がある。

本事例は、資質・能力を育成する観点から研究授業を通して単元の指導計画や年間指導計画を検証し、修正するこ とで日々の授業改善につなげるという、これからの校内研究の在り方を提案するものである。

本校の研究授業では、全ての教員が「今、自分が教えている子供たちに、重点的に育みたい資質・能力が身に付いて いるかどうか」という視点をもって授業を観察し、他学年にまでその視点を広げて算数の年間指導計画の内容の検討を 行った。資質・能力を育成するためには、全学年における算数の内容の系統性を全ての教員が理解して共有し、どの学 年の習熟度別指導のどのコースにおいても問題解決の過程で子供に積極的に既習事項を活用させることが大切であるこ とが確認された。

今後は、資質・能力を育成する観点から、研究協議会において算数だけではなく国語や理科などの内容について検 討するなど、他教科等にも視野を広げて年間指導計画の見直しを行い、日々の授業改善を図っていくことが大切である。

# 小・中学校 小・中学校合同の「学園研究」の推進

学校教育目標(重点目標)

「よく考え、進んで学ぶ児童・生徒」

重点的に育みたい資質・能力

多様な視点から考察し、筋道を立てて 課題解決に取り組む力

#### 重点的に育みたい資質・能力を育成するPDCAサイクル 1

本校では、「多様な視点から考察し、筋道を立てて課題解決に取り組む力」を育成するために、小・中学校合 同で行う校内研究を「学園研究」として、小・中学校の全学年の各教科等において取り組むこととした。

この資質・能力の育成を図るために、小・中学校合同の各教科等における研究授業を起点として、小・中学校 9年間の年間指導計画の内容について校種を越えて検討し、見直しを行った。

本事例で取り上げたのは、小・中学校合同の各教科等の分科会で行った研究授業におけるPDCAサイクルの実 践である。

# Plan【指導案検討会】

#### 単元(題材)の指導計画への位置付けの確認

- 小・中学校合同の各分科会に分かれて、資 質・能力を各教科等のどのような内容を通して 育成するかを検討し、指導計画に位置付けた。
- 各教科等の内容の系統性を確認し、既習事 項を活用して課題解決に取り組む学習活動の 計画を立てた。



# Action【分科会】

#### 各教科等の年間指導計画の 内容の改善

○ 資質・能力を育成するための各 教科等の年間指導計画を、小・中 学校9年間の内容の系統性と関連 性の視点で見直し、修正した。

多様な視点から 考察し、筋道を 立てて課題解決に 取り組む力

# DO【研究授業】

#### 各分科会の研究授業の実施

- <授業者>
- 本時で育みたい資質・能力の育成 を意識して指導した。
- <参観者>
- 本時で育みたい資質・能力を育成 することができたか、評価規準に照 らして評価した。
- 担当する学年の教科等の内容との つながりを意識しながら観察した。



# Check【研究協議会】

#### 単元(題材)の指導計画及び各教科等の 年間指導計画の内容の評価

- 資質・能力が育成されたかどうか、評価規 準に照らして判断し、単元の指導計画の内容 を評価した。
- 各教科等において、各学年の子供に資質・ 能力がどの程度育成できたかについて振り返 り、課題を明確にした。

体育・ 音楽 道徳 図工·美術 技術·家庭 英語 保健体育 他者と協働して、

課題解決しようとする態度 社会 国語 理科 図工·美術

多様な視点か ら、物事を捉え ることができる 知識・技能

学びに向かう力、 人間性等

> 思考力・判断力 ・表現力等

社会 算数·数学 理科

多様な視点から 考察し、課題解決 する力

#### PDCAサイクルの推進の実際 2

# 1eck 資質・能力を育成するための指導計画の内容であったかを評価

研究協議会で、資質・能力を育成するために適切な内容であったか、各学年の各教科等における子供の実態も 含めて協議した。

例) 小学校第4学年・理科の単元「ものの温度と体積」の研究授業における協議会

知識・技能

#### 単元の指導計画の内容の評価

資質・能力に係る評価規準 【思・判・表】空気も水も温度が上がると体 積が大きくなることを活用して考察している。

子供全体の7割がおおむね達成できてい る状況であったため、単元の指導計画の内 容は適切であった。

#### 各校種・学年の子供の実態の振り返り

<各校種・学年の内容の系統性の視点から> 同じ教科等における各学年の子供の実態を 振り返り共有した後、どのような内容を通し て資質・能力の育成が図られるのか、小・中 学校9年間の内容の系統性や主な学習活動に ついて確認した。

#### 各教科等の教育活動の評価

<各教科等の内容の関連性の視点から> 各教科等の各学年の内容について、 資質・能力の育成の観点から振り返り、 内容や学習活動の関連性について検討 した。

# 資質・能力を更に育成するために指導計画の内容を修正・改善

資質・能力を育成する観点から、小・中学校9年間を見通した各教科等の内容の系統性や関連性を意識しなが ら、年間指導計画の内容を見直し、活用させたい既習事項や学習活動を明記した。

#### 各教科等の9年間の指導計画の内容の修正例)理科の「単元系統表」

	粒子						
	粒子の存在	粒子の結合	粒子の保存性	粒子の持つエネルギー			
第3学年		多様な視点 することか に付いてい	)子供は、 気から考察 が十分に身 ない。多様	○ものの重さを調べ よう形を変えたとき のものの重さを比較 して、その違いを考 え、ノートに書く。			
第4学年	○とじこめた空気や水 ・空気の圧縮 ・水の圧縮 空気を閉じ込めたペッ トボトルと、水を閉じ 込めたペットボトルを 圧した実験で、手ごた えが違うのはなぜかに ついて考え、話し合う。	な視点をもつために、 全学年において、自 分の考えを互いに伝え 合う活動を取り入れる。		○ものの温度と体積 空気を温めたときの 体積の変化の様子を 予想して図に示す。			
		本単元に関連のある既 習事項や資質・能力を育 成するための学習活動の 工夫について明記した。					

#### 他教科の指導計画の改善

例) 中学校 第1学年 技術・家庭科(技術分野) 「制作する作品の設計と加工」

項目	学習活動・内容	指導上の留意点	評価の観点と方法
構想のまとめ(修正)	点があれ 察してい ・デザイン 検討した 業につい	までは、子供一人一人 ハたが、友達相互で考 一後に、個人で効果的 いて考えを深めること うに内容を改善した。	えを物についても
グループによる検討	・各自が自分の構想を 提案する。 ザインを示しまる セプトや、考えている る加工方法、イス するアドバる。	・必要なことを簡潔に まとめて提案できる ように伝えて相間から ・提案者は、仲間から もらった意見やアド バイスを、しっかり 記録させる。	[生活を工夫し創造する能力] ・仲間からの提案に ついて互いに検討 を重ね、適切な意 見やアドバイスを 相手に伝えること ができている。

#### まとめ 3

小・中学校の連携の取組は、その効果に対する期待から多摩地区においても広がりを見せており、年に数回、小・ 中学校の教員が互いに授業を参観し合って効果的な指導方法等について検討するなどして、授業改善を推進している。 本事例は、小中一貫教育校において9年間を通して重点的に育みたい資質・能力の育成を図るために、各校種・ 学年を通した各教科等の内容の系統性(たてのつながり)と関連性(横のつながり)の視点から、各教科等の年間 指導計画の内容の見直しを図る取組について提案するものである。

研究協議会では、資質・能力を育成する観点から、どのような学習活動を各学年の学習で積み重ねてきたのか、 既習内容が身に付いていない原因はどのようなことかなどについて協議し、小・中学校9年間の各教科等の年間指導計画の内容や学習活動を見直し、教育活動の改善を図ることが重要であることを確認した。

今後は、小・中学校の全ての教員が、重点的に育みたい資質・能力を育成するという共通の認識をもち、校種・ 学年を越えて、各教科等の年間指導計画の内容を改善していくことが大切である。

#### 総合的な学習の時間に係る指導計画の見直し 小学校

- 学校教育目標(重点目標)
- 重点的に育みたい資質・能力
- 「よく考え、進んで学ぼう」
- 相手を意識して進んで表現する力

#### 重点的に育みたい資質・能力を育成するPDCAサイクル 1

本校では、「相手を意識して進んで表現する力」を育成するために、総合的な学習の時間の全体計画と全学年 の年間指導計画について、主な学習活動を中心に、必要な人的・物的資源の活用なども含めて見直すこととした。 この資質・能力の育成を図るために、資質・能力を育成する観点から学習する内容や学習活動の在り方を考え るための提案授業を実施し、その授業に基づいて全体会で協議することによって、各学年の年間指導計画の内容 の修正を行った。

本事例で取り上げたのは、小学校第3学年・総合的な学習の時間の単元「動物となかよし」の提案授業におけ るPDCAサイクルの実践である。

# Plan【学年会】

#### 単元の指導計画の作成

- 資質・能力を育成する観点から、昨年度の 第3学年の教員から引き継いだ年間指導計画の 内容を見直すとともに具体的な学習活動を検討 して、単元の指導計画を作成した。
  - 国語の「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の内容 を踏まえて、1年生に伝えることを意識しながら表現す る方法を丁夫し、発表の準備に取り組む活動を計画した。

# Action 【学年会·教科等部会】

#### 総合的な学習の時間及び関連する 教科等の年間指導計画の内容の修正

- 総合的な学習の時間の全体計画及び第 3~6学年の年間指導計画に、相手や目的・ 意図に応じて伝える活動を位置付けた。
- 総合的な学習の時間の全体計画に 育みたい資質・能力と関連する教科等 の主な内容や学習活動を明記した。
- 第3学年の国語の年間指導計画の 「話すこと・聞くこと」「書くこと」の 内容を修正した。

# 相手を意識して 進んで 表現する力

# DO【提案授業】

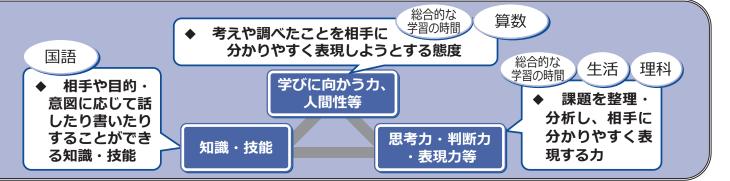
#### 提案授業の実施

- 1年生に分かりやすく表現する ための内容や方法を考え、話し合 う活動を設定した。
- 全ての子供が1年生に説明する 活動を設定した。
- 1年生に伝わっているかどうか を確かめるための話合いを行い、 修正・改善するように指導した。

# Check【全体会】

#### 単元の指導計画及び年間指導計画、 関連する教科等の年間指導計画の内容の評価

- 資質・能力が育成されたかどうか、各教科 等の単元の評価規準に照らして判断し、指導 計画の内容が適切であったかどうかを評価した。
- 資質・能力を育成する観点から、全ての学 年の年間指導計画の内容や学習活動が適切で あったかを評価した。



#### PDCAサイクルの推進の実際 2

# **heck** 資質・能力を育成するための指導計画の内容であったかを評価

全体会で、子供に資質・能力が育成されたかどうかといった観点から、単元の指導計画、年間指導計画、全体 計画の内容について協議を行った。

#### 単元の指導計画の内容は適切であったか

◆ 資質・能力に係る評価規準

【学・人】調べた動物について分かりやすく説明しようとし ている。

1年生の反応を見ながら表現を工夫できた子供の割合は、全 体の7割程度であった。

全体を通して子供の学びを振り返ると、指導計画の内容は適 切であった。

更に、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の内容で 相手を意識することを丁寧に指導する必要がある。

#### 各学年の各教科等の年間指導計画の内容は適切であったか

<各学年の総合的な学習の時間の年間指導計画>

第4学年でも、交流や発表などの活動を取り入れてはいる が相手を意識して表現を工夫する力の育成についてはまだ不 十分である。

<関連する教科等の年間指導計画>

学校全体で重点的に育みたい資質・能力を育成する必要が あることから、特に、国語の「話すこと・聞くこと」「書く こと」の内容について、相手や目的・意図を明確に伝える学 習活動を全学年において重視していく必要がある。

# 資質・能力を更に育成するために指導計画の内容を修正・改善

学年会や教科等部会で、総合的な学習の時間や関連する教科等の年間指導計画の内容を修正した。

#### 各学年の年間指導計画の内容の修正

例) 第4学年 総合的な学習の時間の年間指導計画の修正

月	キーワード	単元名 ◆主な学習活動 ★改善点の明記			
<u></u>	$\sim\sim$	·····			
9 •	人・	地域安全マップを作ろう			
10	くらし	◆ 学校周辺の危険個所を調べ、模造紙にまとめ掲示する。			
		★ 全校児童に調べたことを伝えるため発表会を実施する。			
		★ 全校児童にアンケートを取り ***			
		ることを調査する。			
		★ 第1学年にも分かるよ 「地域安全マップを作			
		表現方法を工夫するろう」の内容に、異学年へ			
11 ·	人・	市のパンフレットを作ろうの発表活動を位置付けた。			
12	くらし	◆ 市のよさを伝えるためのパン。			
		★ オリンピック・パラリンピックを参観するために来日す			
		る外国人に市のよさを伝えるという目的をもつ。			
		の月国人に同めなどを囚べるという目的をもう。			

#### 関連する教科等の年間指導計画の内容の修正

例)第3学年 国語の年間指導計画の修正

#### まとめ 3

本校では、総合的な学習の時間において、これまでに作成した地域の人的・物的資源を活用した全体計画や各学 年の年間指導計画を毎年引き継いで実践してきた。

本事例は、重点的に育みたい資質・能力を育成する観点から、総合的な学習の時間の全体計画や各学年の年間指 導計画の改善を図るという、全教員が一体となって行う取組を提案するものである。

第3学年の総合的な学習の時間の提案授業を通して、子供たちに相手に伝えることができる知識・技能や相手や 目的・意図に応じて分かりやすく表現する力を育成していく必要があることが分かった。そこで、重点的に育みた い資質・能力の育成に向けて、総合的な学習の時間の全体計画や各学年の年間指導計画だけではなく、国語などの 関連する教科等の年間指導計画の内容についても改善する必要があるという認識をもった。総合的な学習の時間の 全体計画や各学年の年間指導計画の内容の改善が、教育課程全体の改善を図る契機になり得ることが分かった。

今後は、総合的な学習の時間におけるPDCAサイクルの実践をモデルに、子供に重点的に育みたい資質・能力を育 成することができたかどうかという視点から、各教科等の指導計画の不断の改善につなげていくことが大切である。

#### オリンピック・パラリンピック教育に係る 中学校 各教科等の指導計画の見直し

学校教育目標(重点目標)

重点的に育みたい資質・能力

「思いやりのある人になる」

社会の一員として地域のために 貢献しようとするカ

#### 重点的に育みたい資質・能力を育成するPDCAサイクル 1

本校では、「社会の一員として地域のために貢献しようとする力」を育成するために、オリンピック・パラリ ンピック教育に係る各教科等の年間指導計画を見直すこととした。その際、オリンピック・パラリンピック教育 で育成すべき5つの資質の一つであるボランティアマインドの醸成を重視するようにした。

特に、特別活動で行っていた校外学習の内容について資質・能力を育成する観点から検討を行うことで、その 実施計画を見直すとともに、各教科等の年間指導計画の修正を重ねていった。

本事例で取り上げたのは、第1学年のオリンピック・パラリンピック教育に係る各教科等のPDCAサイクルの 実践である。

# Plan【教科等部会】

#### 実施計画の作成及び年間指導計画上での 位置付けの明確化

- 校外学習の実施計画にどの教科等のどのよ うな内容を通して資質・能力を育成するかを 明記した。
- 各教科等の年間指導計画において該当する 内容に印を付けて明確にした。



#### 各教科等の年間指導計画の内容の修正

- 資質・能力を育成する観点から各 教科等の指導計画の内容や学習活動 について、必要な人的・物的資源の 活用の位置付けも含めて修正した。
- 例)総合的な学習の時間

総合的な学習の時間の年間指導計画に身近 な人の役に立つことを考え、実践する活動を 位置付けた。

社会の一員として 地域のために貢献 しようとするカ

# Do【授業】

#### 各教科等の授業の実施

- 資質・能力の育成を意識して、 各教科等の授業を実施した。
- 例)総合的な学習の時間

ボランティアマインドについての考えが 広がるように、自分のグループと異なる意 見に触れさせた。



# Check 【学年会】

#### 各教科等の年間指導計画の内容の評価

- 資質・能力が育成されたかどうか、各教科 等の単元の評価規準に照らして判断し、指導計 画の内容が適切であったかどうかを評価した。
- 各教科等の指導において、資質・能力を育成 するために内容は適切であったかを評価した。

#### 例) 道徳

「社会参画、公共の精神」の指導については、自分の 生活を見直し自分ができることについて考える態度を育 成する必要がある。



総合的な 学習の時間

社会の形成者としての自覚をもち、 積極的に社会参画しようとする態度

道徳

社会貢献や他者を 思いやる心といった ボランティアマイン ドをもつことができ る知識・技能

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

思考力・判断力

・表現力等

総合的な 学習の時間

地域の役に立つ ために何ができる か課題を設定し、 解決する力

#### PDCAサイクルの推進の実際 2

# neck 資質・能力を育成するための指導計画の内容であったかを評価

中学校第1学年の総合的な学習の時間に位置付けた校外学習「東京2020大会で、私ができるボランティアマインド」 の内容は資質・能力の育成につながっていたか、そのための単元の指導計画の内容は適切であったかなどについて、学 年会を活用して検証した。

#### 単元の指導計画の内容は適切であったか

資質・能力に係る評価規準 【思・判・表】自らの生活の在り方を見直し、地域の役に立つために どのようなことができるかという課題を設定する。

地域の役に立つための活動に関心をもつことができた子供の 割合は、全体の5割程度であった。

- 本単元では、指導計画の内容に課題があった。
- 道徳の「社会参画、公共の精神」の指導で、社会参画の意 義や他者を思いやる行動について丁寧に指導する必要がある。

#### 単元の指導計画と各教科等の年間指導計画の内容の評価

<総合的な学習の時間>

地域や人の役に立つための自分自身の課題は何かという ことに向き合い、気付くための学習活動が必要である。

#### <各教科等>

ボランティアマインドに関する 理解が十分ではないという実態か ら、各教科等においても意図的・ 計画的に指導していく必要がある。



# 資質・能力を更に育成するために指導計画の内容を修正・改善

教科等部会や学年会で、資質・能力を育成する観点から各教科等の教育活動の在り方について協議し、年間指導計画 の内容を修正した。

1型価担准

#### 特別活動の年間指導計画の内容の修正

活動内突

=7010	/LIBWY 3TC	計 Ⅲ/九十		
ボランティアマ インドを探そう (校外学習) (全18時間のう ち総合的な学習 の時間は7時間)		・ 自分の生活の在り方を見直し、 地域の役に立つために何ができるか課題を設定する。 ************************************		
ボランティアマ インドを発揮し よう (全7時間のう ち総合的な学習 の時間は2時間)	めにどんなボランティアマーえ、	の役に立つことを考 実践する活動を取り るように修正した。 ・ ボランティアマインドについ て理解し今後の生活にどのよう に生かしていくか表現できる。		

#### 他教科等の年間指導計画の内容の修正

例) 第1学年 保健体育の年間指導計画の修正

単元	学習内容	評価規準			
名		運動や健康・安全へ の関心・意欲・態度	運動や健康・安全 への思考・判断	運動の技能	運動や健康・安全に ついての知識・理解
武道	柔道	・武道に積極的に 取り組んでいる。 ・相手を尊重し、 伝統的な行動の仕 方をしている。	ラジョン ら学習活度は、模	能力を育成す動を見直し、 類を見直し、 擬ミ二大会の	更に次年 運営を企
体育理論	様々な人が参加で きるような企画を考 え、東京大会で自分 がどのような態度や 方法で具体的に関わ るかを考える。	・運動やスポーツ の必要性について 積極的に意見交換 をしようとしてい る。	け、ボラ	動を指導計画 ンティアマイ できるように(	ンドの意

#### まとめ 3

多くの中学校では、特別活動において校外学習を実施しているが、例えば第1学年の交通機関を利用した校外学 習は、体験活動を通して資質・能力を育成するための貴重な学びの機会であると捉えられる。

本事例では、学校として重点的に育みたい資質・能力を育成する観点から、特別活動の校外学習の内容の一部を 総合的な学習の時間に位置付け、その実施計画を変更してオリンピック・パラリンピック教育の一環として展開す ることを試みた。

また、ボランティアマインドに関する理解を促すために、特別活動のスキー教室における体験活動の中で、身に 付けた資質・能力を活用・発揮させるという場面を位置付けるように改善したり、保健体育の体育理論の内容でボ ランティアマインドの意義を確認できるようにしたりするなど、年度の途中においても、子供の実態を踏まえて各 教科等の指導計画を工夫・改善することによって、資質・能力の着実な育成につなげるようにした。

今後は、3 年間を通して着実に資質・能力を育成するために、第 1 学年のオリンピック・パラリンピック教育に係 る各教科等のPDCAサイクルの実践をモデルにして、全学年の各教科等の教育活動を改善していくことが大切である。

#### 小学校 学校評価の見直し

学校教育目標(重点目標)

「心豊かで協力し合う子供」

重点的に育みたい資質・能力

自他の価値を尊重しようとする 意欲や態度

#### 重点的に育みたい資質・能力を育成するPDCAサイクル 1

本校では、「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」を育成するために、教育課程全体を見渡して各教科 等の教育活動の内容は適切であったかという観点から、中間評価及び年度末評価といった学校評価の在り方を見 直すこととした。

そのため、学校評価の評価項目について、各教科等の指導を通して資質・能力が育成されたか、そのための内 容が適切であったかというカリキュラム評価の考え方を取り入れ、学校評価の在り方を見直した。

本事例で取り上げたのは、資質・能力を育成する観点から、教育課程全体を見渡した学校評価のPDCAサイク ルの実践である。

# Plan【分掌部会·学年会】

#### ⑤単元の指導計画の | 修正案の作成

どの教科等のどのよう うな内容を通して、重 点的に育みたい資質・ 能力を育成するかを明 確にして、指導上の留 意点を書き添えた。

#### ①教育課程の編成

○ 今年度の学校教育 目標の重点と重点的 に育みたい資質・能 力を、教育課程及び 各教科等の指導計画 に明記した。

#### 【学年・教科等・ Action 分掌の各担当】

#### ⑧教育課程の改善

○ 次年度に向け て教育課程及び 各教科等の年間 指導計画を改善 した。

#### 4 各教育活動の改善

○ 中間評価を踏 まえて、各教科 等の年間指導計 画を改善した。

# 自他の価値を 尊重しようとする 意欲や態度

# Do【各学年・教科等】

#### ⑥中間評価を踏まえて 2 各教育活動の 各教育活動の展開

力の育成を意識 し、工夫を加え ながら指導を実 施した。

# 展開

○ 更に資質・能 ○ 資質・能力の 育成を意識して、 各教育活動にお ける指導を実施 した。

# Check【学校評価】

#### ⑦年度末評価の実施 3中間評価の実施

中間評価で扱って いない各教育活動の 評価シート、自己評 価及び学校関係者評 価を実施して、今年 度の教育課程の成果 と課題を把握した。

○ カリキュラム評価 の項目を盛り込んだ 自己評価及び学校関 係者評価を実施し、 各教育活動の評価シー トの内容と併せて、 その成果と課題を把 握した。



総合的な 特別活動 道徳 学習の時間

自他のよさや違いを受け入れ、生かそうとする態度

国語

道徳

互いの違いを認め、 受け入れることがで きる知識・技能

学びに向かう力、 人間性等

知識・技能

算数

体育

他者の立場に立っ て様々な問題を解 決する力

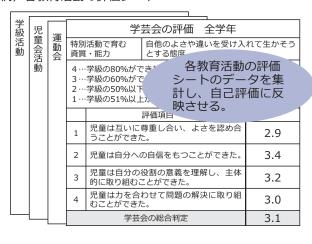
#### PDCAサイクルの推進の実際 2

# heck 資質・能力を育成するための教育活動の内容であったかを評価(中間評価)

中間評価で、各教育活動で資質・能力が育成されたかを検証し、成果と課題を把握した。

#### 資質・能力が育成された教育活動であったか

#### 例) 各教育活動の評価シート



例) 古問証価の一部

思考力・判断力

・表現力等

ענילו ו	十四十三		אם		
	評価の項目		評価規準	平均点	
	望ましい人間関係の形成	1	児童は、互いに尊重し合い、よさを認め 合うことができた。	2.5	
		2	児童は、自分への自信をもつことができ た。	2.9	
特		3	児童は、自らを律し、 <del>いましまる合う間</del> 係を築こうとしていた 6割程度の子	供に資質・	能力
特別活動	して参画し協 ― カして諸問題 ! を解決しよう ―	4	児童は、自分の役割が育成できた内容	が育成できた内容であった	
動		5	児童は、役割を果た とを実感することがて力を育成するた	めに、各教	文育活
		6	児童は、力を合わせ、動の内容を修正で 組むことができた。	する必要が	ある。 
	【カリキュラ 7 1~6につ ム評価】 7 た。		1~6について、年間指導計画は適切であった。	2.	
	特別活動の総合判定			2.9	

#### 指導計画の内容は適切であったか

特別活動の学芸会の指導計画の内容は適切であった。しかし、特 別活動全体からすると、互いに尊重し合いよさを認め合うことは十 分ではなく、各教科等の指導においても、互いを認めたり受け入れ たりすることが、まだ十分ではないといった課題が見られた。

# Action 資質・能力を更に育成するために教育課程を改善

年度末評価を受け、次年度に向けて資質・能力を育成する観点から教育課程を改善した。

#### 教育課程の改善

#### <教育課程の内容(例)>

- 学校の教育目標
- 重点的に育みたい資質・能力
- 指導の重点
  - ・各教科等、特色ある教育活動
- 生活指導、進路指導
- 学年別授業日数及び授業時数の配当

学校評価の結果を踏まえて 全ての教員が今年度の教育課程 の各項目について、資質・能力 を育成する観点から「次年度に 向けてどのように改善すればよ いか」を考え、修正する。

#### 全体計画及び指導計画の改善

教育課程の改善案を基に、次年度の各教 科等の全体計画や年間指導計画を改善する。

#### <改善の視占>

- 資質・能力を育成するための内容
- 資質・能力を育成するために必要な授業時数
- 地域の人的・物的資源等の活用 等

#### まとめ 3

学校評価は、学校教育目標の実現に向けて、教育課程全体を見渡して、その実現状況や実現に向けた教育活動の内 容の適切さについて評価し、改善していく取組である。

本事例は、重点的に育みたい資質・能力の育成に向けて、カリキュラム・マネジメントの一環としての学校評価の 在り方を提案するものである。

具体的には、評価項目の一部を、重点的に育みたい資質・能力を子供に育成することができたかどうか、そのため の内容として適切だったかどうかを問うものに変更するとともに、各教育活動の評価シートを開発し、学校評価と連 動させた。このように、学校評価の中でカリキュラム評価を行うことにより、教育課程全体の評価が可能になるとと もに、全ての教員が、今年度の教育課程の内容の検討・修正と、次年度の教育課程の編成に関わる流れが確立する。 教育課程のPDCAサイクルは、管理職や一部の教員によって推進されるものではない。全ての教員によって推進す

ることにより、重点的に育みたい資質・能力が育成され、学校教育目標の実現が図られるのである。

# 研究のまとめ

# I カリキュラム・マネジメントの実施上のポイント

これからの時代に求められる資質・能力を子供一人一人に育成するためには、各学校が学校教育目標の 実現に向けて、重点的に育みたい資質・能力を明確にし、①教科等横断的な視点から教育活動の改善を図 ること、②教育内容の質の向上に向けた教育活動のPDCAサイクルの推進を図ることが重要である。

12の事例を通して検証した結果、資質・能力の育成を図るためのカリキュラム・マネジメントを実施するためのポイントについて、次の4点が明らかになった。

- 1 重点的に育みたい資質・能力と各教科等の内容への位置付けを明確にすること
- 2 教育課程全体に視野を広げて教育活動のPDCAサイクルを推進すること
- 3 教育内容に焦点を当てて年間指導計画や学習活動などを改善すること
- 4 各学校のこれまでの取組を生かして教育活動のPDCAサイクルを推進すること

#### 1 重点的に育みたい資質・能力と各教科等の内容への位置付けを明確にすること

本研究では、子供一人一人に資質・能力を着実に育成するために、各学校の子供の実態を踏まえて、重点的に育みたい資質・能力を「三つの柱」で整理し、各教科等の内容への位置付けを明確にすることに重点を置いた。

例えば、重点的に育みたい資質・能力を「自らの課題を設定し、課題解決に向けて他者と協働し、新たな 考えを創造しようとする力」と設定した小学校の事例では、各教科等で身に付けた資質・能力を総合的な学 習の時間の「市の未来づくりプラン」の内容で活用・発揮できるよう教科等横断的な視点で見直しを行った。

具体的には、「目的や意図に応じて必要な情報を収集・整理することができる知識・技能」は主に国語や 社会の内容を通して、「自ら課題を設定し、相手の考えも受け入れながら新たな考えを創造する力」と「課 題解決に向けて、相手と協働してよりよい考えを創造しようとする態度」は国語や社会、総合的な学習の 時間の内容を通して育成を図ることとした。

これまでも総合的な学習の時間においては、各教科等で身に付いた資質・能力を活用・発揮させる指導を行ってきたが、「三つの柱」で各教科等の内容の位置付けを明確にして組織的に配列し、意図的・計画的に指導することで、重点的に育みたい資質・能力を育成することにつながった。

このように、子供の実態を踏まえて、重点的に育みたい資質・能力を「三つの柱」で整理することで、どの教科等のどのような内容を通して育成するかが明確になり、各教育活動のPDCAサイクルを通して着実に 資質・能力を育成できることが明らかになった。

### 2 教育課程全体に視野を広げて教育活動のPDCAサイクルを推進すること

本研究では、各学校が子供一人一人に重点的に育みたい資質・能力の育成を図るために、教科等横断的な視点から教育活動の改善を図ることに重点を置いた。

例えば、重点的に育みたい資質・能力を「複数の考えや調べて得られた情報を比較したり、関連付けたりして考え、目的に応じて表現する力」と設定した小学校の事例では、子供たちは図画工作や社会の内容を通して「比較・関連付けて考える」ことを学び、更に身に付けた資質・能力を活用して、理科の内容において「比較・関連付けて考え、課題解決する」ことを学び、重点的に育みたい資質・能力を段階的に身に付けていった。

この資質・能力を身に付ける過程で、子供たちは、「資質・能力を活用できないか」という意識をもちな がら、他教科等の学習にも取り組んでいた。これは、教員が重点を置く教科等にとどまらず、教育課程全 体に視野を広げて、資質・能力をあらゆる学習場面で活用・発揮させることを意識して指導したからである と考える。

このように、各学校で重点的に育みたい資質・能力は、教育課程全体を通して育成が図られるのであり、 全ての教員が、一つ一つの教育活動について、重点的に育みたい資質・能力とのつながりや教育課程全体に おける位置付けを意識しながら教育活動のPDCAサイクルを推進することが重要であることが明らかになった。

#### 3 教育内容に焦点を当てて年間指導計画や学習活動などを改善すること

本研究では、課題提示や発問、板書の仕方などの指導の工夫ではなく、指導計画や学習活動などにおけ る人的・物的資源の活用も含めて、教育内容に焦点を当てて、その質的な改善を図ることが重要であると 考えた。

例えば、小中一貫教育校において、重点的に育みたい資質・能力の育成に向けた授業改善に取り組んだ 事例では、小・中合同の研究授業において、指導の工夫ではなく「本時で育みたい資質・能力は身に付い たか」という視点で授業を参観し、資質・能力を育成するための内容としてふさわしかったかどうか、更に、 資質・能力を育成する上で関連のある他学年や他校種の各教科等の内容についても振り返り、協議を行っ た。その中で、資質・能力が十分に身に付いていなかった場合は、単元の指導計画だけではなく、前の学 年や他校種の年間指導計画や学習活動にも課題があると捉え、どのような学習活動を積み重ねてきたのか、 既習内容が身に付いていない原因はどこにあるのかなど、協議を深めた。そして、資質・能力を育成するた めに、各学年の各教科等における小・中学校9年間分の年間指導計画や学習活動などを見直し、どのよう に改善すればよいかについて話し合った。

このように、各学校において重点的に育みたい資質・能力を着実に育成するためには、学年や校種を越え て、各教科等の内容を振り返り、年間指導計画や学習活動などの改善を図ることが重要であることが明ら かになった。

### 各学校のこれまでの取組を生かして教育活動のPDCAサイクルを推進すること

本研究では、カリキュラム・マネジメントで大切なことは、全ての教員が「重点的に育みたい資質・能力 の育成に向けて、日々の教育活動を改善する」という共通の認識をもち、教育活動のPDCAサイクルを推進 することであるという考えから、校内研究、学校行事の指導、学校評価、学年会など、これまで全ての教 員で行ってきた取組を生かして、事例を開発した。

例えば、重点的に育みたい資質・能力を「社会の一員として地域のために貢献しようとする力」と設定 した中学校の事例では、道徳【知識・技能】、総合的な学習の時間【思考力・判断力・表現力等】【学び に向かう力、人間性等】の内容を通して育成することにした。そして、毎回の学年会の時間のうち10分程 度を教育活動のPDCAサイクルの推進のために充てて、取組を進めた。

また、重点的に育みたい資質・能力を「自他の価値を尊重しようとする意欲や態度」と設定した小学校 の事例では、教育課程全体を通して資質・能力の育成を図るために、学校評価の在り方を見直した。具体 的には、質問項目について、資質・能力が育成されたか確認した上で教育活動の内容の適否を問う形式に 変更した。また、各教育活動の振返りの項目にも反映させたことで、教員一人一人が日々の教育活動の中 で学校評価を推進する流れが生み出されていった。

このように、教員一人一人が「重点的に育みたい資質・能力」と、それを「どの教科等のどのような内 容を通して育成するか」ということを意識できていれば、これまでの各学校の取組を生かして、全ての教員 が主体的に教育活動のPDCAサイクルを推進していけることが明らかになった。

### カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニングの一体的な推進

これからの時代に求められる資質・能力を育成するために、各学校が取り組む二つの柱は、カリキュラム・ マネジメントの実現と、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、アクティブ・ラーニングの視点からの 授業改善である。

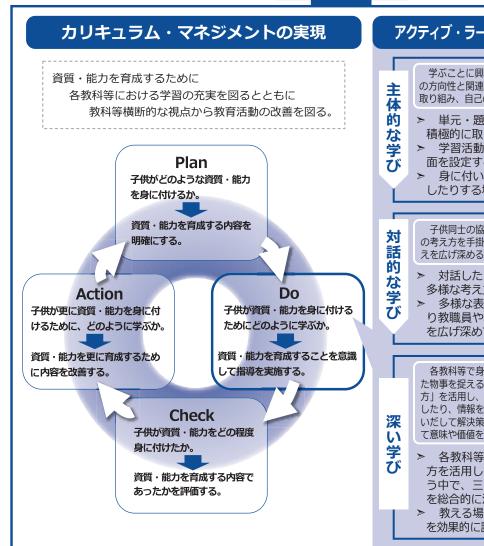
東京都多摩教育事務所では、2年間にわたり、これら二つの柱の具現化に向けて、各学校がどのように 取り組んでいけばよいか、多摩地区の小・中学校における実践を通して追究してきた。

その結果、資質・能力の育成に向けてカリキュラム・マネジメントを実現することは、同時に、子供の学 びの在り方を見直すことでもあること、そして子供の主体的・対話的で深い学びもまた、カリキュラム・マ ネジメントを通して実現が図られることが分かった。

そして、カリキュラム・マネジメントの実現と、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、アクティブ・ ラーニングの視点からの授業改善は、資質・能力の育成という目的に向けて一体的に推進することが重要で あることが明らかになった。

今後、多摩地区の小・中学校をはじめとする多くの学校において、2年間の研究成果が活用され、子供 一人一人に資質・能力を育成するために、カリキュラム・マネジメントの実現と、主体的・対話的で深い 学びの実現に向けた、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善が図られることを期待する。

> これからの時代に求められる資質・能力の育成 (学校教育目標の実現に向けて重点的に育みたい資質・能力の育成)



#### アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成 の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く 取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる。

- 単元・題材を通して興味・関心を持って 積極的に取り組めるようにする。
- 学習活動を自ら振り返り、意味付ける場 面を設定する。
- 身に付いた資質・能力を自覚したり共有 したりする場面を設定する。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲 の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考 えを広げ深める。

- 対話したり資料を読み込んだりしながら、 多様な考え方に気付くようにする。
- 多様な表現を通じて子供同士が対話した り教職員や地域の人と対話したりして思考 を広げ深めていくようにする。

各教科等で身に付けた資質・能力によって支えられ た物事を捉える視点や考える方法である「見方・考え 方」を活用し、知識を相互に関連付けてより深く理解 したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見 いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に構想し て意味や価値を創造したりすることに向かう。

- 各教科等で習得した概念(知識)や考え 方を活用して問題解決等に向けた探究を行 う中で、三つの柱で整理された資質・能力 を総合的に活用・発揮する場面を設定する。
- 教える場面と、思考・判断・表現する場面 を効果的に設計し、関連させながら指導する。

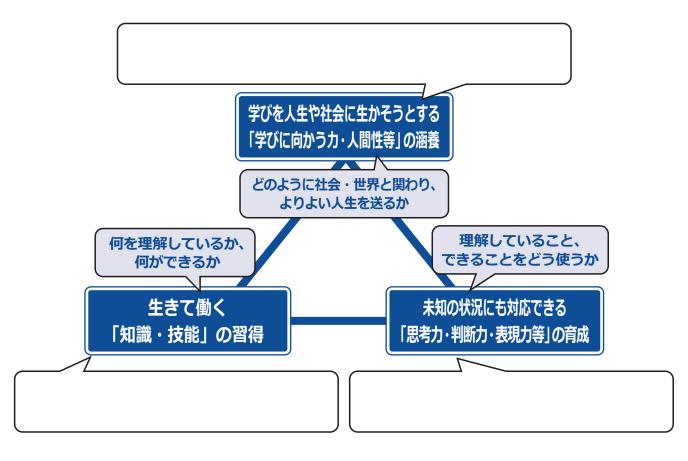
# 付 録

# 【演習シート】

# 子供一人一人に重点的に育みたい資質・能力の明確化

- 子供の実態や地域の現状に関する調査や各種データに基づき課題を明確にする。 2 学校教育目標の重点を設定する。 重点的に育みたい資質・能力を設定する。 3
- 重点的に育みたい資質・能力を「三つの柱」で整理する。 4

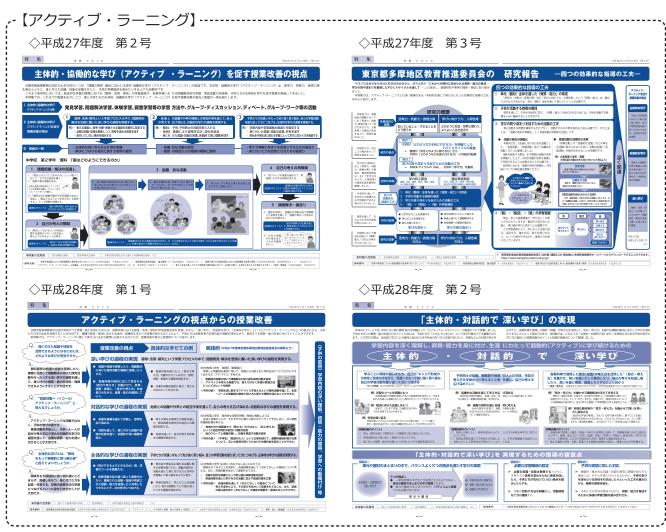
資質・能力を「三つの柱」で整理することにより、どの教科等のどのような内容を通して育成 するのかということが明確になります。

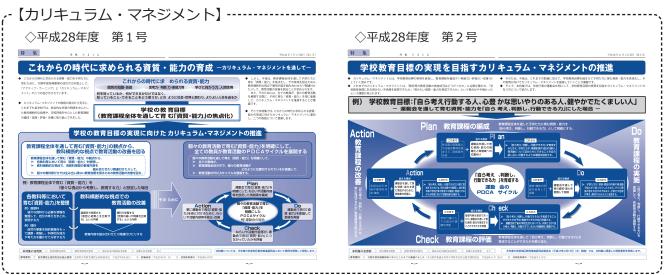


# 東京都多摩教育事務所の刊行物

東京都多摩教育事務所では、年間3回発行する所報「たまじむ」において、平成27年度から「アクティ ブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」についての特集記事を掲載して、多摩地区の全小・ 中学校や関係機関等に情報発信してきた。

これらの特集記事については、東京都多摩教育事務所のホームページからダウンロードすることができ るので、参考にしていただきたい。(http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/)





# 委員名簿

委員長 坂田 篤(清瀬市教育委員会教育長)

副 委 員 長 田 中 稔 (西東京市教育委員会 教育指導課長)

委 員

#### <カリキュラム編成部会>

部 会 長 井 尻 郁 夫(福生市立福生第一中学校 校長)

副部会長 勝山 朗(武蔵村山市立小中一貫校村山学園第四小学校 副校長)

委員高崎浩行(町田市立町田第六小学校主幹教諭)

委員紅谷昌元(日野市立日野第三小学校主幹教諭)

委員滿口佳江(西東京市立本町小学校主幹教諭)

委員 岸 良太郎(昭島市立昭和中学校主幹教諭)

委員 関野純一(東久留米市立大門中学校主幹教諭)

委員 木田兼治(多摩市立諏訪中学校主幹教諭)

#### <マネジメント推進部会>

部 会 長 小 池 愼一郎 (八王子市立長池小学校 校長)

副部会長 木 下 信 久 (東村山市立東村山第五中学校 副校長)

委員 古井 進(福生市立福生第六小学校 主幹教諭)

委 員 杉 森 祥 吾(羽村市立羽村西小学校 主幹教諭)

委員飯塚庫健(西東京市立保谷小学校主幹教諭)

委員田中慎二(八王子市立宮上中学校主幹教諭)

委 員 山 根 浩 二(おおさわ学園三鷹市立第七中学校 主幹教諭)

委員 喜連寛武(西東京市立明保中学校主幹教諭)

#### 事務局 東京都多摩教育事務所

黒田則明 指導主事(併任) 所 튙 重末祐介 田中 指導課長 相原雄三 指導主事(併任) 暁 統括指導主事 浅 野 あい子 渡邊啓介 指導主事(併任) 指導主事 大久保 順 子 教育専門員 村井 恒 指導主事 濱田昌也 教育専門員 飯田 薫 指導主事 堀合葉子 教育専門員 菊 池 春 海 對 馬 伸一郎 指導主事 宇野直人 学校教育指導専門員 学校教育指導専門員 冨 田 広

#### 東京都多摩地区教育推進委員会

第22次計画(通算第43次)報告書

平成29年2月 編集・発行 登録番号28(4)

〒190-0022 東京都立川市錦町4-6-3 TEL 042-524-7222 FAX 042-528-0985 印 刷 システム印刷株式会社



### 【表紙について】

表紙の矢印による渦巻きは、子供一人一人が、これからの時代に求められる 資質・能力を身に付け、自らの可能性を追求していくエネルギーを表しています。





